

令和3年度「やまぐちっ子の心を育む道德教育」プロジェクト推進校

研究サポート委員 実践事例集

NO.	市町	学校	内容項目	学 年
1	岩国市	岩国中学校	遵法精神、公德心	中学校3年
2	岩国市	藤河小学校	親切、思いやり	小学校2年
3	岩国市	御庄小学校	個性の伸長	小学校2年
4	田布施町	田布施中学校	真理の探究、創造	中学校1年
5	田布施町	東田布施小学校	親切、思いやり	小学校1年
6	光市	室積中学校	遵法精神、公德心	中学校3年
7	光市	光井中学校	国際理解、国際貢献	中学校2年
8	山口市	小郡小学校	善悪の判断、自律、自由と責任	小学校3年
9	山口市	小郡南小学校	友情、信頼	小学校6年
10	山口市	上郷小学校	善悪の判断、自律、自由と責任	小学校2年
11	山陽小野田市	有帆小学校	親切、思いやり	小学校4年
12	山陽小野田市	高千帆小学校	正直、誠実	小学校6年
13	山陽小野田市	高泊小学校	伝統と文化の尊重、 国や郷土を愛する態度	小学校3年
14	下関市	川中中学校	友情、信頼	中学校3年
15	下関市	熊野小学校	礼儀	小学校2年
16	阿武町	阿武小学校	生命の尊さ	小学校5年
17	阿武町	福賀小学校	感謝	小学校3・4年
18	岩国市	由宇中学校	勤労	中学校2年
19	岩国市	通津小学校	親切、思いやり	小学校4年
20	岩国市	灘小学校	親切、思いやり	小学校6年
21	周防大島町	大島中学校	よりよい学校生活、 集団生活の充実	中学校2年
22	周防大島町	久賀小学校	規則の尊重	小学校1年
23	周南市	熊毛中学校	生命の尊さ	中学校2年
24	周南市	高水小学校	親切、思いやり	小学校1年
25	防府市	華陽中学校	希望と勇気、克己と強い意志	中学校3年
26	防府市	中関小学校	家族愛、家庭生活の充実	小学校4年
27	宇部市	厚南中学校	友情、信頼	中学校2年
28	宇部市	西宇部小学校	公正、公平、社会正義	小学校5年
29	下関市	勝山中学校	思いやり、感謝	中学校1年
30	下関市	東部中学校	思いやり、感謝	中学校3年
31	長門市	菱海中学校	公正、公平、社会正義	中学校2年
32	長門市	日置小学校	公正、公平、社会正義	小学校6年

～遵法精神、公德心～

岩国市立岩国中学校

1 本授業におけるポイント

- ルールを破って入園させた子どもの母親からの感謝の手紙と、ルールを破ったことによる懲戒の相反する2通の手紙を主人公が見ながら考えさせられたことを問題とすることにより、多面的・多角的な思考を促す。
- 法やきまりの意義という、道徳的価値に根差した問題を取り上げ、規則は私達の幸福を守るために作られていることに気付かせる。

2 授業の実際

1 主題・教材名 法やきまりの意義「二通の手紙」（日本文教出版）

2 ねらい

法やきまりは人々の幸福を守るためにあることを理解し、それらを主体的に守るとともに、よりよい在り方について考えようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 法やきまりの種類を確認する。

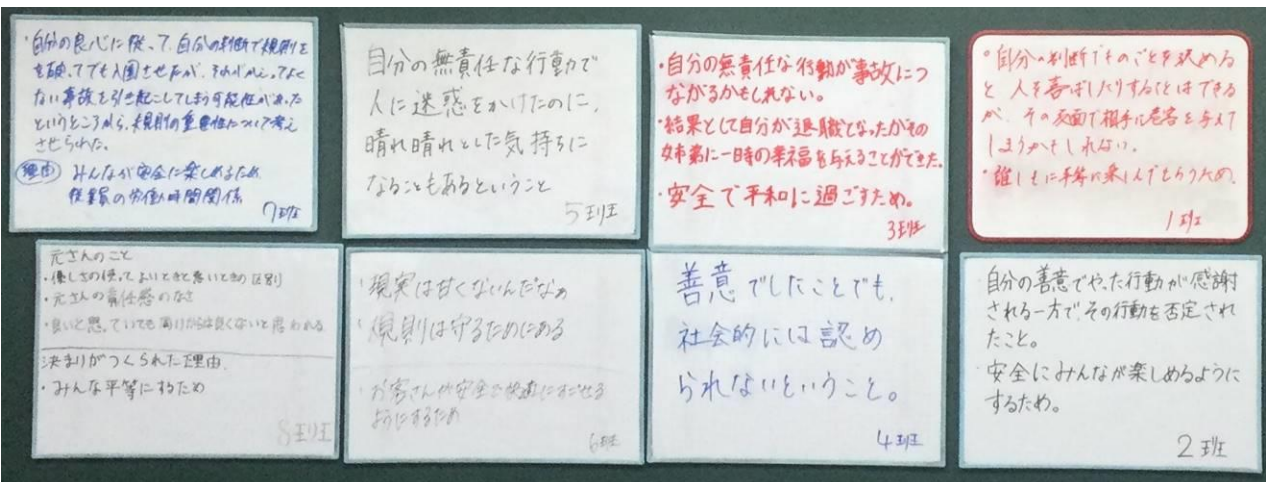
教師： 私達はふだん、どんな法やきまりの中で生活しているのだろう。  
A児： 日本国憲法。 B児： 少年法。 C児： 校則。

○ 指導上の留意点・支援等

交通ルールなどを例示し、身近な法やきまりを想起させ、主題について考えさせる準備をする。

(2) 展開 教材「二通の手紙」を読み、元さんの行動について考える。

教師： ①姉弟を入園させた元さんの、何が問題だったのだろう。  
A児： 元さんが規則を破ったこと。  
B児： 同情や思いやりに流されて行動してしまったこと。  
教師： ②元さんが、二通の手紙を並べて見比べながら、初めて考えさせられたことは何だろう。  
教師： ③ ②で考えたことをグループで話し合おう。また、この動物園のきまりは何のためにつくられたものかもあわせて考えてみよう。



○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 規則を破り、入園させたこと自体に問題があることを押さえる。
- ・ まず、個人で考えさせる。それから友達の見聞も聞くことで、多面的・多角的な考えの広がりをもたせる。
- ・ 法やきまりについて主体的に考えさせるために、ルールは守るためにあるものだから、という受動的な姿勢の発言等が見られたら、なぜルールができたのか、誰のために、何のためにあるのかという点に注目させるようにする。
- ・ 法やきまりの意義について話し合わせ、私達の幸福を守るために規則が作られたからこそ、規則を守らなければならないことに気付かせる。

(3) 終末 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめる。

教師： 法やきまりについて、どのように考えればよいかまとめてみよう。

(生徒の記述より)

A児： 法やきまりをつくるに当たって皆が納得することと、納得する説明があったらよいと思う。

B児： 法やきまりを守れば平和にはなると思う。でも、法やきまりによって迷惑している人もいるから、内容はよく考えるべきだと思う。

C児： 法やきまりは厳しい内容もあるかもしれないけど、それは、安心・安全に暮らせたり平等で楽しくできたりなど社会全体をよりよくしていくために存在するのだと思う。

○ 指導上の留意点・支援等

法やきまりの意義について、自分の考えを道徳ノートにまとめる。

### 3 評価について

○ 法やきまりの意義について、道徳的価値を考えようとする姿勢が見られたか。

例) ルールは守るものだから、という受動的な態度ではなく、法やきまりを守らなければならない理由について主体的に考える態度が見られたか。

○ 法やきまりの意義について理解しようとし、そのよりよいあり方について深く考えているような発言や記述があったか。

例1) 法やきまりは、私達を縛るだけのものではなく、私達を守るためにあるものだということが分かった。

例2) 法やきまりを守るように言われると厳しく感じるが、法やきまりを守ることや守らせることが思いやりのあることだということが分かった。

### 4 実践を振り返って

今回、法やきまりの意義について考えさせる授業を行ったが、思った通りルールは守るためにある、という意見が多かったし、なぜ守らないといけないかということについてはあまり考えていないように見えた。生徒は、今までにルールは守らないといけないということを指導され、規範意識は身に付いている。しかし、その意義については考えることがないようだった。また、元さんがやったことについてはルールを破るのはいけない、という意見がほぼ全員であったが、時にはきまりを破ることも必要だ、という意見もあった。最終的に、法やきまりを守ることにも思いやりであるとか、よりよい法やきまりをつくっていきたい、という考えにもっていきかけたが、半数程度しかそのような意見の生徒がいなかったため、何が思いやりかということにも今後目を向けられるように指導していききたい。

～親切、思いやり～

岩国市立藤河小学校

**1 本授業におけるポイント**

- 登場人物の気持ちを板書に比較しながら整理することで、それぞれの考え方に違いがあることに気付くことができるようにする。
- 役割演技を取り入れ、読み物資料の主人公と同化させることで、主人公の気持ちに共感できるようにする。
- その後の主人公の行動を想像させることで、自身のよりよい行動につなげられるようにする。

**2 授業の実際**

1 主題・教材名 あたたかい心「くりの み」（日本文教出版）

2 ねらい

うさぎの優しさに触れ、自分のことばかり考えていたことを後悔するきつねの気持ちを考えることを通して、身近にいる人に温かい心で接することの大切さや、身近にいる人に温かい心で接しようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 親切にしてもらった、これまでの経験を振り返る。

教師： 親切にしてもらったことはありますか。  
 A児： 友達に保健室に運んでももらった。  
 B児： 優しくしてもらった。

○ 指導上の留意点・支援等

親切にしてもらった時の嬉しかった気持ちを思い起こせるようにする。

(2) 展開前半 「くりの み」を読んで話し合う。

教師： うそをついたときのきつねは、どんな気持ちでしたか。  
 A児： どんぐりを見付けたことを気付かれたくない。  
 B児： どんぐりをもっともらえるかもしれない。  
 C児： 見付けたと言ったらどんぐりを取られるかもしれない。

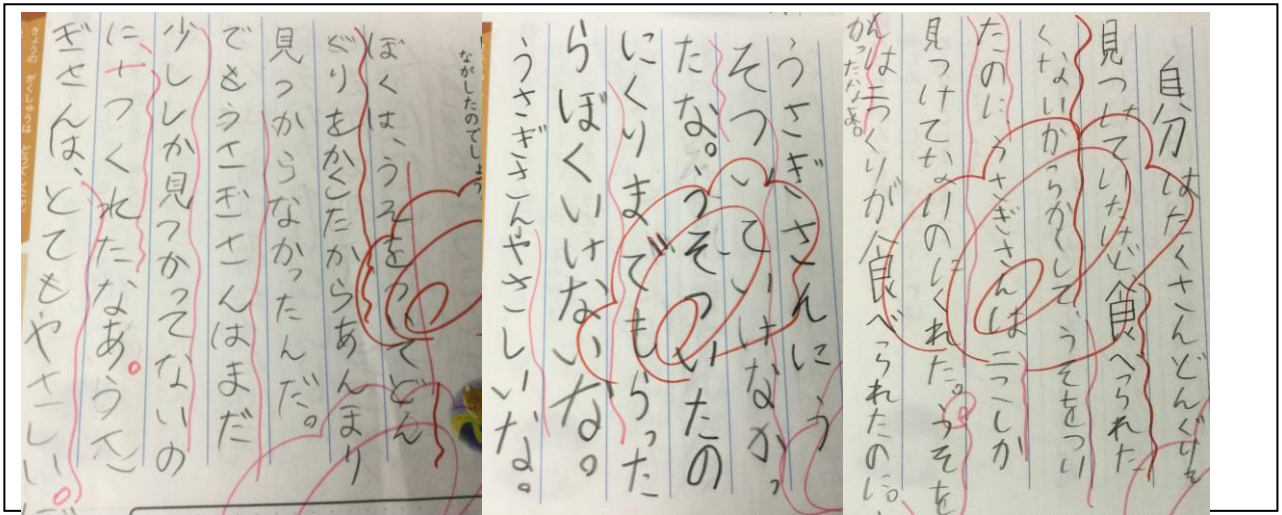
教師： きつねの話聞いて、うさぎはどんなことを考えていたでしょうか。  
 A児： 何も見付からなかったとは、かわいそう。  
 B児： まだ何も見付けていないから、わたしのくりをあげよう。

展開後半 きつねが涙したときの気持ちを考え、話し合う。

教師： どうしてきつねは、涙を流したのでしょうか。  
 A児： うそをついたのに、くれるなんて優しいな。  
 B児： うそをついていたぼくは、いけない。悪かったな。  
 C児： うさぎさんは2つしか見付けてないのに、1つくれた。うさぎさんは、とても優しい。

○ 指導上の留意点・支援等

役割演技を行いきつねになりきることで、うさぎの優しさに触れきつねが自分の行動を後悔した気持ちに共感できるようにする。

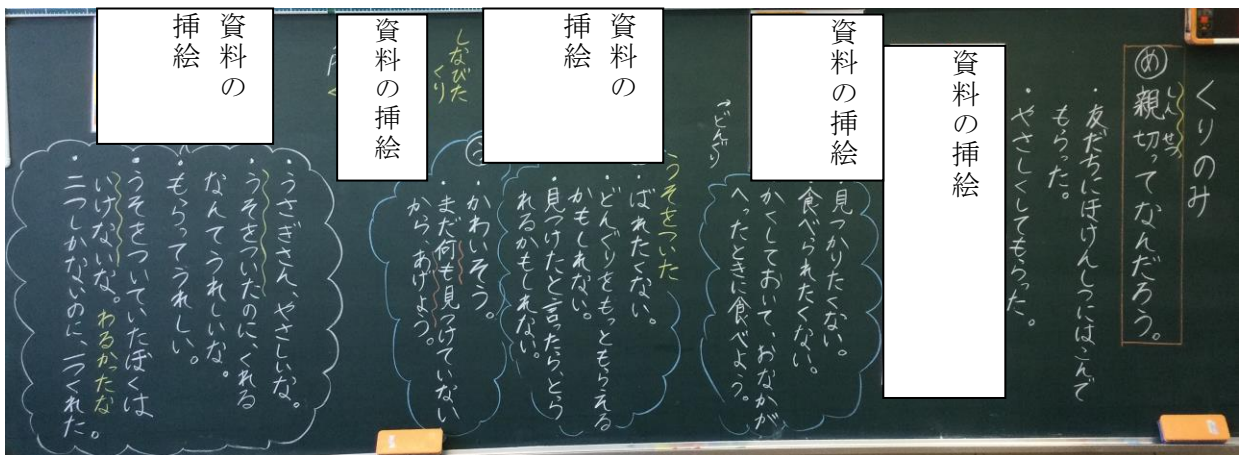


(3) 終末 その後のきつねの行動を想像し、発表し合う。

教師： うさぎさんにくりをもらったきつねさんはこの後どうしたでしょうか。  
 A児： うさぎさんに謝る。  
 B児： うさぎさんに見つけたどんぐりをあげる。  
 C児： うさぎさんと仲良くした。

○ 指導上の留意点・支援等

うさぎの優しさやきつねの後悔を踏まえ、きつねのその後の行動を想像させることで、うさぎの相手を思う親切な行動によりきつねの心情が変化したことに気付かせ、今後の自分自身のよりよい行動につなげられるようにする。



3 評価について

道徳ノートを活用し、視点を絞って児童が考えることができるようにした。主発問に対する児童の思考の流れと、振り返りにおける道徳的価値の理解が深まったかを評価することができた。役割演技を取り入れ、主人公に共感しながら、より深く考えるきっかけとした。主人公のその後の行動を想像させることで、価値に対する理解の深まりを確認することができた。今後も道徳ノートを活用し、焦点を絞って、価値の理解について評価をしていきたい。

4 実践を振り返って

役割演技をすることで、児童は自分事として捉えたり、主人公に同化したりすることで、率直な思いを述べることができた。演技の後、教師がインタビューをすることで、もったきつねの心情を深く考えられたと感じた。

子どもたちはよく考えていたので、たくさんの意見が出た。子どもの言葉をもとにまとめて、価値について考えると親切の大切さをさらに実感できたと思う。

～個性の伸長～

岩国市立御庄小学校

1 本授業におけるポイント

- 自分のよいところについて考える時間を最初と最後に2回設定することで、自分のことをさらに見つめ、自己を振り返ることができるようにする。
- 友達のよいところを見付け、書いたものを友達に渡すために、友達のよいところについて考える時間を十分に取ることで、人のよいところについてしっかりと考えることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 じぶんのいいところ「いいところ みいつけた」  
(日本文教出版)

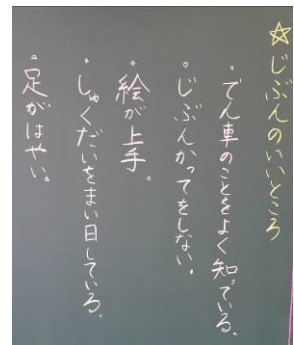
2 ねらい

自分や友達のよいところについて考える中で、よいところが見付かるととても嬉しい気持ちになることに気付き、自分のよいところを見付けていこうとする態度を養う。

3 学習指導過程

(1) 導入 自分のよいところをワークシートに書く。

教師： 自分のよいところを思いっただけ書いてみましょう。  
A児： 前に友達がほめてくれたのを書こうかな。  
B児： うーん、すぐに思いつかないな。  
  
教師： 書いたことを発表してみましょう。  
C児： 電車のことをよく知っていること。  
D児： 足が速いこと。

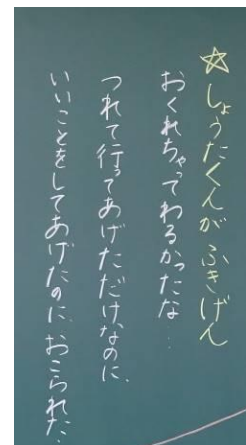


○ 指導上の留意点・支援等

何人か発表して例を挙げることで、自分自身のよいところに全員が1つは気付くことができるようにする。

(2) 展開前半 教科書を読んで、いいところを見付けてもらえたり、ほめてもらえたりするとどんな気持ちになるかを考える。

教師： 弟だけがほめられたり、友達が不機嫌になってしまったりしたとき、りえさんはどんな気持ちだったでしょう。  
A児： 弟がほめられているのを聞いて、自分もほめてもらいたいと思っていると思う。  
B児： せっかくだいいことをしたと思っているのに、分かってもらえず不機嫌になられて悲しい。  
  
教師： 先生の言葉を聞いて、りえさんはどう思ったでしょう。  
C児： 先生ががんばっていることに気付いてくれて嬉しい。



○ 指導上の留意点・支援等

弟だけがほめられたり、友達に気付いてもらえなかつ

たりした時の気持ちを深く考えることで、よいところを見付けてもらえたり、ほめられたりすると嬉しいという気持ちに気付けるようにする。

## (2) 展開後半

教師： 友達のいいところを見付け、友達に伝えましょう。  
A児： 友達のいいところならすぐに見付けられるよ。  
B児： 友達がぼくが気付いていなかったところにも気付いてくれたよ。

### ○ 指導上の留意点・支援等

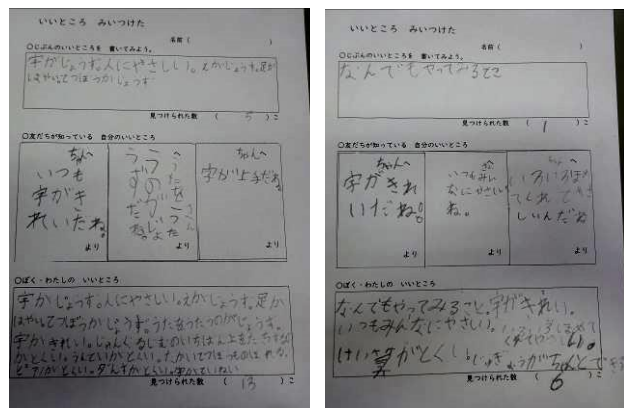
友達のよいところを見付けるときに教師が指定した児童同士で行うことで、いつも仲良しの友達だけではなく、誰のことでもすぐによいところを見付けることができることを実感できるようにする。

## (3) 終末 もう一度自分のよいところについて考え、ワークシートに書く。

教師： ワークシートに自分のよいところを見付けて書きましょう。  
A児： はじめは1つしか思いつかなかったけど、4つも書けたよ。  
B児： そういえば、前に、こんなこともほめてもらったな。

### ○ 指導上の留意点・支援等

最初より自分で書ける自分のよいところが増えたこと、自分では気付かないことも友達が気付いてくれたことに気づき、自分にはよいところがたくさんあるということを実感できるようにする。



## 3 評価について

評価方法： ・ワークシートの記述  
導入時と終末時の意見の変容から、最初よりたくさん自分のよいところが見付けられているかを見取る。また友達に対して、技能面や性格面などの、様々な視点からよいところが見付けられているかを見取る。  
・発表・発言  
・道徳ノート  
友達からのメッセージを読み、自分が感じたことをノートに書く。

## 4 実践を振り返って

自分のよいところについて、技能的な面については児童自身も気づきやすく、自分のことでもすぐ書くことができた。また、以前に家族や友達、教師からほめられたことがあるものについては、自分でも自信をもつことができていた様子ワークシートの記述や発表から知ることができた。

自分ではなかなか見付けにくいのは、「年下の子にやさしくできる。」「いつも困っている友達に声をかけてあげている。」等の性格的な面でのことで、友達に言われてから気付くことが多かった。日々帰りの会で取り組んでいる「よいところみつけ」でも、性格的な面でのよさに気付けるように声をかけていきたい。

～真理の探究、創造～

田布施町立田布施中学校

**1 本授業におけるポイント**

- 個人で考えた後、小集団で意見を交わし合う場を設けることで、自分の意見を伝えたり、友達の意見に触れたりする機会を増やし、物事を多面的・多角的に考える場を仕組む。
- 主人公が、亡くなる直前まで探究する姿勢をもっていった理由を問うことで、本時で気付かせたい道徳的価値に迫るだけでなく、自身の考えを深められるように展開させていく。

**2 授業の実際**

- 1 主題・教材名 「ミスター・ヌードルー安藤百福ー」（廣濟堂あかつき）
- 2 ねらい

自分とは何の縁もない専門外の分野において、試行錯誤を繰り返しながら新しいものを創造した安藤百福さんの生き方について考えることを通して、好奇心・探究心をもち、新しいものを創造していこうとする道徳的実践意欲を培う。

**3 学習指導過程**

- (1) 導入 カップラーメン、もしくは安藤百福さんに関して知っていることを述べ合う。

教師： カップラーメンは、我々にとってどのような存在ですか。  
 生徒A： お昼ご飯の定番。  
 生徒B： とても身近な物で生活に欠かせない物。  
 生徒C： みんなが好きな食べ物。  
 生徒D： いざというときの非常食。自分たちを救うアイテム。  
 教師： カップラーメンを発明した人について知っていることがありますか。  
 生徒E： 安藤百福さんという人。  
 生徒F： 朝の連続テレビドラマ小説で取り上げられていた。

- 指導上の留意点・支援等

本時で取り扱う教材が、普段から馴染みのあるカップラーメンと関わることを想起させ、生徒の興味・関心を引き出す。その工夫として、カップラーメンを提示しながら生徒と対話する。

- (2) 展開 安藤さんの取り組んできた過程とその時の心情について考える。

教師： 途中で開発が難航し、頭を悩ませ続けていた安藤さんはどのようなことを思っていたらう。  
 生徒A： やっぱり素人には無理だったのかもしれない。  
 生徒B： 何度失敗を重ねても、絶対に途中で投げ出さないぞという強い信念をもち続けよう。  
 生徒C： ラーメンをすすめる人々のあの幸せそうな顔を決して忘れるわけにはいかない。

- 指導上の留意点・支援等

安藤百福さんの生き方を追っていく中で、生徒は安藤さんの「あきらめな



い粘り強さ」や「くじけない心」に焦点を当てて考えることが予想される。しかし、本時のねらいは「新しいことを生み出す」ことへの道徳的実践意欲を培うことであるため、安藤さんの取組の過程に注目させるのではなく、その過程の先に新しいものが創造されることを確認する。

### (3) 終末 探究と創造を続けた安藤さんの生き方について考える

教師：	安藤さんが亡くなる直前まで新しいものを考えていたのはなぜだろう。
生徒A：	喜ぶ人の顔が見たいから。
生徒B：	何かに向かって突き進んでいくことは、きつく苦しいことも多いけど、やり遂げたときの達成感が大きいから。
生徒C：	何かを発明することや、新たなものに進んでいくことが楽しく、やりがいのあるものだから。
生徒D：	日常の中に発明のヒントが隠れている。広い視野で日常生活を過ごしていると次から次へいろいろなものが思いつくから。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

カップラーメンの発明だけで自分の役目を終えたわけではなく、発明を通して、安藤さんは探究していくことの価値を見出した点に注目させる。そのために、カップラーメンを発明した事実を主として取り上げるのではなく、その後の生き方や安藤さんの「また新しいことを考えている。」という言葉の裏にある姿勢に気付かせる。

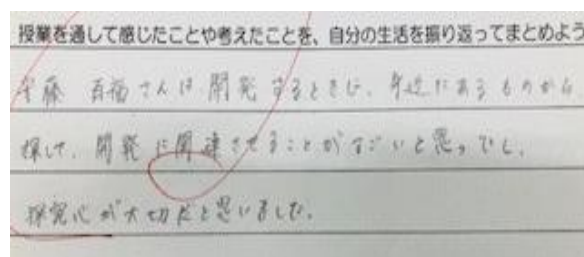
## 3 評価について

- |  |
|--|
| ○ 小集団活動における生徒の話合いの様子や発言、ワークシートに書かれている内容から、「好奇心や探究心をもって取り組む」という道徳的価値に気付いているか。 |
| ○ 友達との話合い活動や学級における友達の発言から、自分の考えを振り返り、多面的・多角的に物事を捉えられているか。                    |

## 4 実践を振り返って

題材が生徒に馴染みがあるもので、授業の導入から生徒は教材によく向き合っていた。身近にあるカップラーメンの誕生の陰に、ゼロから挑戦し成し遂げた人物がいることに感銘を受け、心を揺さぶられた生徒が多くいたように感じる。

生徒の感想に「身近なものからヒントを得て探究心に繋げたい。」というような言葉が表出し、新しいものを考え、探究し続ける安藤さんの姿勢に生徒を向かわせるというねらいに迫る生徒が見られた。しかし一方で、やはり安藤さんの「諦めなければ夢は叶う」、「努力し続けることの大切さ」といった表面的な思考に留まる生徒も一定数おり、発問のしかたや、支援の工夫に課題を感じた。



～親切、思いやり～

田布施町立東田布施小学校

1 本授業におけるポイント

- .自分よりも力の弱い相手にいじわるをするおおかみや、自分よりも力の強い相手から優しくされるおおかみの役割演技をさせることで、親切にすることのよさを考えることができるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 親切の気持ちよさ「はしの上のおおかみ」(廣濟堂あかつき)
- 2 ねらい

くまの優しさに触れたおおかみの心の変化について意欲的に考えることを通して、親切にすることの気持ちよさに気づき、人々に温かい心で接し、親切にしようとする道徳的心情を育む。

3 学習指導過程

(1) 導入 本時の学習課題を知る。

教師： みなさんの周りに優しい人はいますか。どうして優しいと思うのですか。  
 A児： 上級生。困っていると助けてくれるから。  
 B児： お母さん。いっぱい褒めてくれるから。  
 教師： その人達は、どんな気持ちだったでしょう。  
 C児： 優しい気持ちだったと思う。



○ 指導上の留意点・支援等

生活体験を想起させて、価値の方向付けを図るようにする。この後に続く学習課題「やさしくすると、どうなるの？」を意識させるための最後の発問を、しっかりと児童に投げかけるようにする。

(2) 展開 資料を読んだ後、役割演技を通して、いじわるをしたり優しくしたりするおおかみの心を確認する。

教師(うさぎ役)： ごめんなさい。すぐに戻ります。  
 A児(狼役)： いいんだよ。こうすればいいのさ。  
 教師(うさぎ役)： どうして優しくしてくれるんですか。  
 B児(狼役)： うさぎさんのうれしそうな顔を見たら、気持ちがいいからだよ。  
 教師(うさぎ役)： おおかみさんのことが好きになりました。



○ 指導上の留意点・支援等

おおかみ役を指名し役割演技を行うことで、意地悪を楽しむおおかみの気持ちに近づけるようにする。くまの優しさに触れた後、うさぎ役を教師が行い、おおかみ役を指名し役割演技を行う。演技中には、教師が意図的に切り返しの問いかけを行い、児童に自由に発言させる。

(3) 終末 親切、思いやりについて考える。

教師： おおかみは、くまからどんなことを教えてもらったのでしょうか。  
A児： 優しくすることはいいこと。  
B児： 親切にすると自分も気持ちよくなる。



○ 指導上の留意点・支援等

本時のめあてを受けて、人に優しくすることで、お互いに心が明るくなることを考えさせる。親切や思いやりといった道徳的価値についての理解を深めさせるようにする。

### 3 評価について

役割演技の中で、教師の切り返し発問に対する児童の発言は、本音で語ってくる感じが強く、「見取り」としては、かなりリアルな評価ができた。

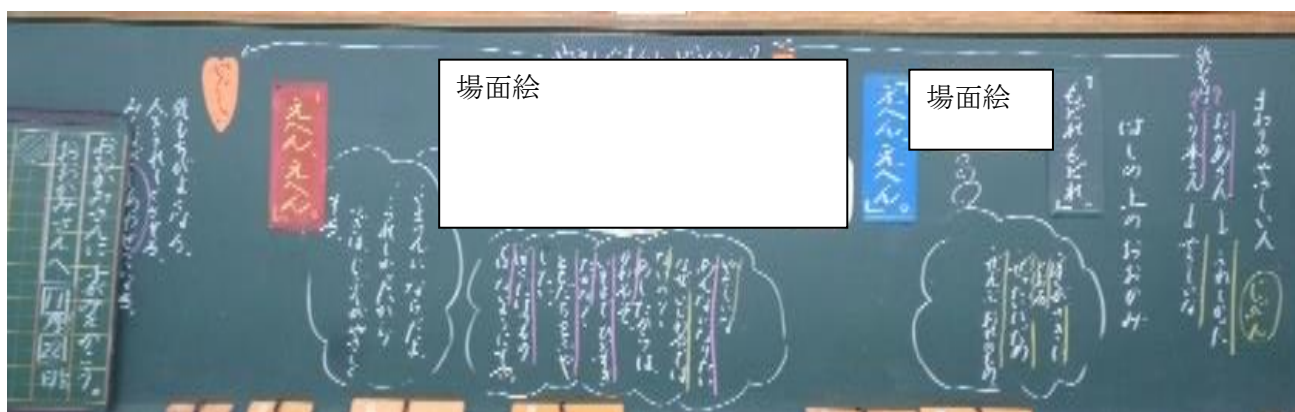
ノートの自由記述欄に、おおかみへの手紙を書かせたが、おおかみの心の変容に対する賞賛や驚きが見られた。



### 4 実践を振り返って

児童が主体的に取り組めるための手立てとして、導入時に自分に対して親切にしてくれた人の気持ちを想像させたことで、学習のめあてをしっかりとめさせることができた。

普段から役割演技を取り入れた授業を行っていることで、児童は積極的にみんなの前で本音を語る姿が見られた。役割演技をする際には、児童同士ではなく、教師が入って切り返しの会話をすることで、登場人物の心情に深く入り込めることを感じた。今後、児童同士（ペア、グループ）での積極的な意見交換を仕組むために、どのような手立てを工夫すればよいかについて、日々の実践を通して考えていきたい。



～遵法精神、公德心～

光市立室積中学校

**1 本授業におけるポイント**

- 法やきまりの成り立ちの意義について理解を深め、規則のもつ優しさやあたたかさに気付かせる。
- きまりの意義について深く考えるとともに、規律ある社会をつくろうとする心を育てる。
- 友達との意見交換を通して、他者の価値観に触れる。

**2 授業の実際**

1 主題・教材名 法やきまりの意義「二通の手紙」（日本文教出版）

2 ねらい

元さんの選択について考えることを通して、きまりの意義を考え、規律ある社会をつくろうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 物語の内容を押さえる。

教師： 元さんが行った規則違反は何ですか。2つ書きましょう。  
 生徒A： 入園時間を過ぎてから人を入れたこと。  
 生徒B： 小学生以下の子どもを保護者の同伴なしで入園させたこと。  
 教師： では、元さんの行動を支持しますか。支持する人は青のボタン、支持できない人は赤のボタンを押しましょう。そして、シートに自分の意見を書きましょう。  
 (支持する) 13名： 姉弟に何か事情があることを察したと思うから。  
 (支持できない) 9名： 子どもたちの安全のことを考える危険だから。

○ 指導上の留意点・支援等

タブレット (MetaMoJi Classroom) を使って意見を書かせた。色のボタンを押すことで、生徒の画面が赤と青で表示されるので、全体の意見の把握ができる。

元さんの行為の是非を問うのではなく、その行為の背景にある思いや願いに思いを巡らせて考えさせたい。

(2) 展開1 元さんへの処分が適切かどうかを考える。

教師： 元さんへの処分は適切だと思いますか。適切・重い・軽い  
 の視点で考えて書きましょう。  
 (適切) 12名： 再び同じようなことが起こったら困るから。  
 (重い) 8名： 子どもは無事で、母親からはお礼の手紙があり、  
 誰も損をしていないから。  
 (軽い) 2名： いくつもの規則違反をして、園に迷惑をかけたから。



○ 指導上の留意点・支援等

元さんへの処分が適切かどうかを元さんの思いや姉弟の心情を考慮しながら考えさせ、その根拠を様々な視点から捉えさせる。

### (3) 展開2 規則に込められた思いについて考える。

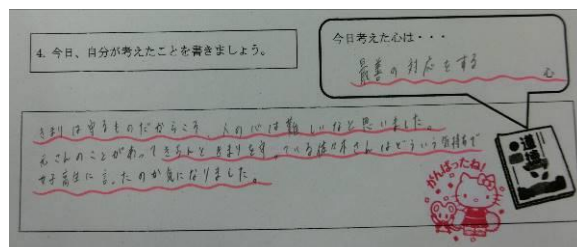
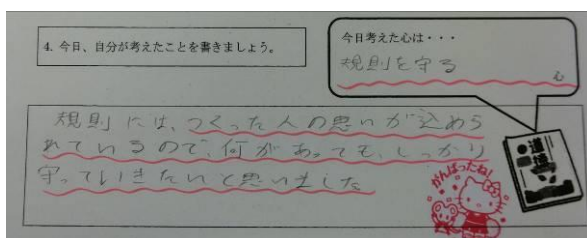
教師： 動物園の規則をつくった人は、規則にどんな思いを込めたと思いますか。  
生徒A： みんなが安心・安全に楽しんでほしいという思い。  
生徒B： 動物園で事件や事故が起きずに、みんなが楽しい気持ちで帰ってほしいという思い。  
生徒C： 動物園を守ろうとする思い。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

規則を多面的・多角的にとらえるために、規則をつくった側の思いを想像させた。規則を守ることは安全を保障するだけでなく、幸せを守ることにもつながるという、規則がもつあたたかな側面に気付かせたい。

### (4) 終末 今日「考えた心」と「考えたこと」を書く。

教師： 今日の授業を通して、「考えた心」と「考えたこと」を書きましょう。  
生徒A： 最善の対応をする心  
きまりは守るものだからこそ、人の心は難しいなと思いました。  
生徒B： 規則を守る心  
規則にはつくった人の思いが込められているので、しっかり守っていきたいと思いました。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

きまりは自分たちを拘束するものではなく、自分たちを守るためにあることに改めて気付かせたい。

## 3 評価について

- ワークシートの振り返りの記入において、自分自身の生活を振り返り、今後の生き方につなげようとしているかを見取る。
- ワークシートを回収し、考えを深めている記述には、赤ペンでアンダーラインを引いて返却を行う。

## 4 実践を振り返って

道徳の授業では「文章の読み取り」にならないように気を付けている。登場人物の心情を考えながら、最後には自分自身を振り返る時間であることを生徒にも伝えている。

本時では、きまりの意義について深く考えさせ、規則のもつあたたかさに気付く生徒が多かったように感じた。改めて規則やきまりは、自分たちの幸せを守るために存在することを考えるきっかけとなった。

～国際理解、国際貢献～

光市立光井中学校

1 本授業におけるポイント

- レーダーチャートを用い、自分が考える恩返しのイメージを視覚化、共有することで、多様な考え方に触れる機会をつくる。その上で、今回取り扱う時間・距離・国籍を越えた助け合いの精神に気付くことができるようにする。
- 自らの危険を顧みず、他者のために行動することができた人々の根底にあるものについて考える活動を通して、人々を隔てる国や時代を越えて実践できることを意識できるようにする。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 国際社会の一員「海と空－樫野の人々－」（日本文教出版）
- 2 ねらい

同じ世界に生きる人間として、国や時代を越えて助け合う重要性を理解し、世界平和と人類の発展に貢献しようとする実践意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 トルコという国について知っていること、イメージを聞く。

教師 : トルコという国について、どんなことを知っていますか。  
 生徒A : アイス  
 生徒B : 料理  
 教師 : 場所はどのあたり？  
 生徒 : 分かりません・・・ →画面に示す（イランと一緒に）  
 教師 : そしてトルコは日本と友好的な関係を築いていると言われていますが、そのきっかけとなったのが…（本文）



- 指導上の留意点・支援等

国の位置や文化など、幅広く取り上げる。昨今ニュースになっている株価等については深入りせず、日本－トルコ間の友好関係につなげる。意見が出にくい時は資料を提示し、生徒のイメージを膨らませる。

(2) 展開 自分の身の周りのどこまでの恩を返すことができそうか考え、レーダーチャートに表したものを交流し、自分と異なる考え方に触れる。

教師 : 恩返しはどこまでする？  
 生徒C : 自分に関係なかったらやらないと思う。  
 生徒D : 見たこともない先祖はもう他人じゃない？  
 生徒B : 恩は返したいけど遠かったらできないかも…  
 生徒E : ペットを助けてもらったら返すかも。  
 生徒A : 覚えてないことは難しいやろう。



- 指導上の留意点・支援等

レーダーチャートが大きい＝正しい、とならないように教師のチャートを例示しながら個人の考えを記入させる。ペアや小グループで比較することで、恩返しを多面的にとらえる機会を設ける。

(3) 終末 榎野の日本人やテヘラン空港のトルコ人を突き動かしたのは何なのかを考える。

教師： 榎野の日本人や、テヘラン空港に駆けつけたトルコ人を突き動かしたのは何だったのでしょうか。  
 (生徒記述)  
 生徒C： 日本人から大きな恩を受けていたから。  
 生徒F： 見殺しにしてしまうと心苦しく感じると思うから。  
 教師： 榎野の人々は恩を受けていたわけではないのに行動できたのはなぜだろう？  
 (生徒記述)  
 生徒G： 榎野の人々もこの後どうなるかも分かっていなかったと思う。だけど、目の前の命を助けたかったのだと思う。

自分の考え  
 ・時代や人が違っても国に代わって、恩返しをしようとしたから。

自分の考え  
 ・ただ危険にさらされた人々を、誰かの助けを待たずに助けたから。  
 ・目の前に助けられる命があったから。

自分の考え  
 おたがいさまの心

○ 指導上の留意点・支援等

テヘラン空港での恩返しは国境や世代を越えたもので、個人の考えと大きく乖離することが想定される。その上で、国や時代の違いにとらわれず、他人のために行動ができた理由を考えさせる。賞罰の有無で考えが止まっている生徒には、「それだけで自己を犠牲にしてまで、他者を助けることができるだろうか。」と発問を重ねて思考を促す。

3 評価について

発問に対する自分の考えが、周囲のつぶやきや発表を受けてどのように変化したか、あるいは深まっていったのかを、ワークシートの記述内容から評価する。  
 トルコという国から得た信頼を恒久的なものとし、他の様々な国とも友好的な関係を築いていくために、自らの役割と責任について考えることができているかを確認する。

<p>○「これからの国際社会を生きていくうえで、自分にできることを考えてみましょう。」</p> <p>私は、今日の授業を通して、自分の恩返しは、身近な人からいいから、恩返しはいいけれど、世界に目を向け、国境を越え、人々を助けることも、自分にできることはあるんだなって思いました。</p>	<p>○「これからの国際社会を生きていくうえで、自分にできることを考えてみましょう。」</p> <p>目・前・で・困・り・て・い・る・人・に・は、可・く・に・手・を・貸・す。恩返しを求めんじやなくて、助けたいという強い気持ちで動くことが大切だと分かりました。</p>
<p>○「これからの国際社会を生きていくうえで、自分にできることを考えてみましょう。」</p> <p>今日の授業で人を助けることの大切さがよく分かりました。世界中の人々が世界中の人々が助け合えば、平和な世界になると思っただけ。</p>	<p>○「これからの国際社会を生きていくうえで、自分にできることを考えてみましょう。」</p> <p>何もしてないのに、危険にさらされてしまったからこそ、誰かであっても、助けたいことはあることなのかなと考えました。助けられてばかりからやらなければならず、助けられても、自分も、相手も助ける大切さ分かりました。</p>

4 実践を振り返って

今回の授業で取り扱った国境や時代を越えた相互扶助の精神を、遠くの誰かや国がやってくれる他人事から、自分事としてとらえられるように工夫した。その結果、命に関わる緊急事態だけでなく、今の自分にできることを考えさせることができた。「募金をする」だけにとどまらず、相手が求めている助けの本質は何なのかまで具体的に考えさせられなかった点が課題として残った。

～善悪の判断、自律、自由と責任～

山口市立小郡小学校

1 本授業におけるポイント

※「効果的な指導方法～ICTを用いた効果的な資料の提示と話し合いの工夫～」

- 本学級の子どもたちは、道徳の授業において、自分の思いを伝え合うことや友だちの考えを聞き合うことで、よりよく生きるためにどうしたらよいかを考える活動に意欲的に取り組む子が多い。特に、主人公の迷いや葛藤に対して、どうしたらよいかを考え、話し合う過程を通して、今までの自分を見つめ直し、これからの自分につなげようとする姿勢がみられる。

そこで、より主人公の迷いや葛藤を具体的に捉えることができるようパワーポイントを用いて分かりやすく資料を提示し、各場面において、どうしたらよいかを考えさせた。また、互いの思いや考えを隣同士や班で伝え合うことに加え、全体でより考えを深めていくための対話がある授業を仕組むことにした。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 正しいと思うことは自信をもって「二つの声」（東京書籍）

- 2 ねらい

正しいと判断したことは、自信をもって行おうとする心情を育てる。

- 3 学習指導過程

- (1) 導入 正直に言えなかった経験について発表し合い、本時の学習に関心をもつ。

教師： 「いけないことをして正直に言えなかった経験とその理由について」話し合おう。

A児： 叱られるのが怖くて正直に言えなかった。

B児： 友達から責められたり、からかわれたりするのがいやで、正直に言えなかった。

- 指導上の留意点・支援等

正直に言わなくてはいけないと分かっているが、正直に言うことができない理由を話したり、聞いたりすることで、本時の登場人物の気持ちや行動への関心をもつことができるようにする。

- (2) 展開 資料「二つの声」を聞き、「ぼく」の気持ちを考え、話し合う。

教師： 花瓶を割ってしまって、声2を選択し、正直に言えなかったときの気持ちについて考えよう。

A児： だれも見えていないからだまっておこう。

B児： 先生に叱られるのがいやだ。

教師： またもや声2を選択して、すぐにあやまることができなかったため、友達の二郎くんが割ったことになったのを見て、どんなことを考えていたのかな。

A児： 二郎くんには、悪いけど、野球に入れてれなかった仕返しだ。

B児： だまっていれば分からない。

C児： どうしよう。困ったな。

D児： 正直に言ったら、二郎くんや友達に責められる。

E児： 自分が正直に言わないと二郎くんのせいになる。どうしたらいいのだろうか迷うけど、正直に言うともっと叱られる。

教師： 正二くんは、どうすればいいのか、アドバイスをしましょう。

A児： 正直に言うと、自分もすっきりできるよ。

B児： 勇気を出して、みんなに言おう。みんなだって、心からあやまったら、許してくれるよ。



- 指導上の留意点・支援等

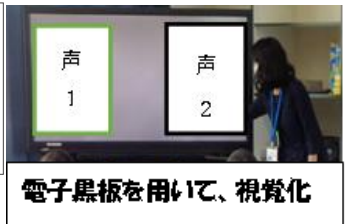
自分事として考えさせるために資料を途中で止めて、正二が声1・声2の



どちらを選択するのかを考えさせる。

### (3) 終末 自己を振り返り、これからの行動について考える。

教師：今日の学習をふり返って、これからの自分について考えよう。  
A児：これからは、かくさないようにしていきたい。  
B児：勇気を出して、正直に言うのがいいと思った。  
C児：叱られるのがこわかったけど、これからは、悪いことをしたら正直にあやまって、人のせいにしないようにしていきたい。

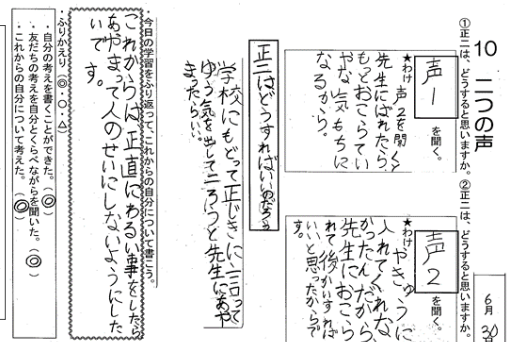


#### ○ 指導上の留意点・支援等

「今日の学習をふり返って、これからの自分がしていきたいこと」について、ワークシートに書いたり、友だちのふり返りを聞いたりすることで、道徳的価値に気付くことができるようにした。

## 3 評価について

- 「善悪の判断、自律、自由と責任について、具体的に考えることができているか」「正しいと思ったことは、自信をもって行動することの大切さを自分との関わりの中で考えているか」について、ワークシートの記入及び発表を通して見取るようにした。
- 「これからこんなことに気を付けていきたい」「これから自分ができそうなこと」について等、自己の生き方についての考えを深めている記述を見取り、全体の場でも価値付けるよう工夫した。



## 4 実践を振り返って

導入で「いけないことをしてしまった時、正直に言えなかったことがあるか。」と尋ね、自分をふり返らせた。児童からは、「正直に言わないといけないと分かっているが、叱られるのが怖かったり、周りから責められるのが辛かったりして、正しい行動ができないことがある。」という意見が出た。こうした正しい行動ができない理由を出し合うことで、主人公の行動を自分事として捉えることができた。

展開で、文章だけでは、声1と声2のやりとりの把握が難しい面があるが、パワーポイントを活用し、声1・2を整理したイラスト入りの視覚資料と音声を合わせることで、より主人公の心の葛藤を深めることができた。次第に深まる主人公の心の葛藤を視覚的に提示することで、「正二は、どうすればいいのだろう。」という問いに対して、より主人公に自分を同化させ、考えていくことができた。

また、ペアや班での話し合いを通して、友だちと考えを共有するとともに、全体でもよりよい生き方についての考えを深め合うことができた。

最後の活動では、主人公の心が温かくなったことをピンク色のハートで提示し、これからの自分はしたらよいかを振り返らせた。その中では、「うそについてはいけないと分かりました。うそをついたら、心が晴れないし、もやもやするからです。」「自分は、おこられないためにうそをつくこともあったので、これからは、正直に言おうと思います。」等が見られ、道徳的価値について自分なりに考えていたように思う。

今後の課題は、自分の考えを伝えたり、友達のことを聞いたりするだけでなく、議論を通して、自分の考えの変容が感じ取れるようにしていきたい。

～友情、信頼～

山口市立小郡南小学校

1 本授業におけるポイント

- 事前に「友達についてのアンケート」を実施し、授業前に子どもたちの現状や課題をつかみ、自分の生活と関連付けて考えることができるようにする。
- グループで話し合う時間を確保することで、自分の考えを伝えたり、友達の考えに共感したりして、自分を振り返り、今後の生活に生かすことができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 友情を深める「言葉のおくりもの」（東京書籍）

2 ねらい

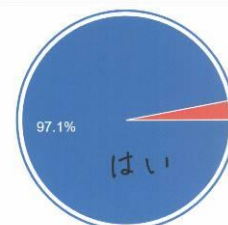
異性について理解し、互いに信頼し合って友情を深め、よりよい人間関係を築いていこうとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 アンケート結果から、男女が仲よくする理由を考えて発表する。

教師： なぜ、男女が仲よくすることは大切なのでしょう。  
 A児： みんなで一緒に遊ぶと楽しいから。  
 B児： 話合いで協力できるから。  
 C児： 男女差別は、してはいけないから。  
 教師： 男女差別とは、どういうことかな。  
 A児： 男女で境目ができること。  
 B児： 遊ぶときに男子は男子、女子は女子に分かれてしまうこと。

男女が仲良くすることは大切ですか。



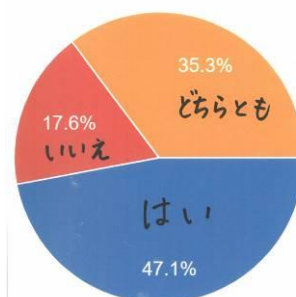
○ 指導上の留意点・支援等

事前にとったアンケート結果をもとに「なぜ、男女が仲よくすることは大切なのか」について考えたことを発表させた。子どもの発言から「一緒に遊ぶと楽しい」「男女差別はいけない」と仲よくしなければいけないことを理解しているのが分かった。本時では「男女仲よくするために大切なことは何か」を考えていくことを投げかけ、教材文を読み進めることにした。

(2) 展開 一郎の気持ちを考えながら内容の確認をし、男女が仲よくするために大切なことを考える。

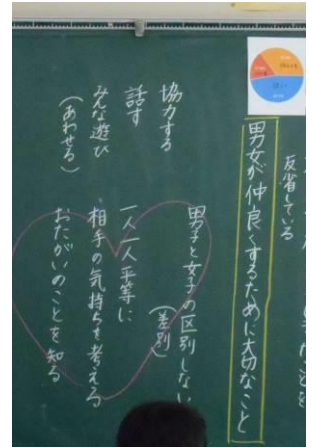
教師： すみ子の「言葉のおくりもの」を一郎はどんな気持ちで受け取ったのだろう。  
 A児： これまでの自分の態度が恥ずかしい。  
 B児： すみ子のように男女に関係なく友達に声をかけたい。  
 教師： すみ子のクラスのように男女が仲よくするために大切なことは何だろう。（中心発問）  
 A児： 男女差別をなくすこと。  
 B児： みんな遊びをたくさんすること。  
 C児： 相手のことを大切に思うこと。  
 D児： 男だから、女だからという偏見をなくすこと。

6年1組は、男女仲のよいクラスだと思いますか。



### ○ 指導上の留意点・支援等

すみ子の男女の絆をこえた友達を思うすがすがしい態度に共感できるようにして、学級全体にも目を向けるようにした。「6年1組は男女仲のよいクラスだと思いますか」のアンケート結果を表示することで、「男女が仲よくすることは大切だ」と理解しているもののクラスの現状は「はい」と答えた割合が半数に満たないことの矛盾点を問い返した。自分たちのクラスの現状に目を向けることで自分のこととして考えるきっかけとなったように感じた。まずは、各自がワークシートに考えを書き、グループでの話し合いはフリートーク形式で自由に意見交流を行った。「みんな遊びの回数を増やす」「積極的に会話をする」など行動面に目を向けた発言と「みんなのいいところを知ること」「男女の偏見をなくすこと」などの心情面に目を向けた発言を分けて板書をするので、心情面が大切であることを意識付けることができた。



### (3) 終末 学習を振り返り、これからの自分について考える。

教師： これからもっとよい友情関係を築くために大切なことは何だろう。  
A児： いろいろな人と関わりあうこと。  
B児： みんなのいいところを知ること。  
C児： 男だから、女だからという偏見をなくすこと。

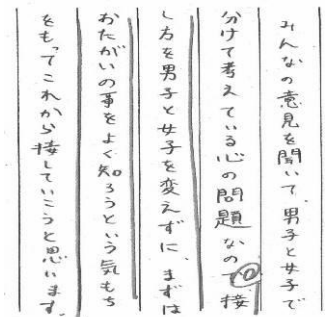


### ○ 指導上の留意点・支援等

導入で投げかけたものと同じ発問をすることで、子どもたちは、自分のクラスに目を向けて考えることができた。「これからもっとよいクラスにするためには」と投げかけて今までの自分を振り返り、これから自分がクラスのためにやってみようと思うことをワークシートに書かせた。

## 3 評価について

- 一郎たちのクラスのように男女が仲よくするためには、自分たちのクラスではどんなことが大切なのか考えることができたか。(ワークシート、話し合い)
- 男女が仲よくするために大切なことは、「一緒に遊ぶ」「声をかける」など行動面も必要だが、男女を意識することなく「思いやり」「信頼」の気持ちをもつことも必要であることをワークシートに記入したり、発言したりしているか。(ワークシート、発表)



## 4 実践を振り返って

アンケート結果から、男女が仲よくすることは大切だとは分かっているものの実際は意識のずれがあるところに目を向けさせ、すみ子のクラスのようにみんなが仲よく過ごせるように「男女が仲よくするために大切なこと」を考えることを中心発問とした。このように事前アンケートでクラスの実情を知ることができ、中心発問を設定したことが子どもたちの学びの深まりにつながったと感じた。

～善悪の判断、自律、自由と責任～

山口市立上郷小学校

1 本授業におけるポイント

- 児童が主体的に考えたり、二つの立場に立って考えたりできるように「あやまろう」「だまっておこう」の考えに分けて板書する。
- 終末では、話合いで出た内容を踏まえながらワークシートを活用して自分自身のことについて振り返ることができるようにする。

2 授業の実際

1 主題名・教材 正しいことの気持ちよさ「わすれられないえがお」(東京書籍)

2 ねらい

わざとではないけれどおぼさんの足を踏んでしまった私の気持ちを考えることを通して、正しいと思ったことは進んで行おうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 教材への方向付けをする

教師： この前「わざとではないのに〇〇されたこと」のアンケートを書いてもらいました。その結果、わざとではないけれど「ボールを当てられた 11人」「物を落とされた 13人」「足を踏まれた 9人」「ぶつかられた 7人」でした。その時、いやな気持ちだったり腹が立ったり、無視しないでという気持ちだったりしたそうです。では逆に、わざとではないけれど自分がしてしまったことはありませんか。

A児： あります。

教師： その時、すぐに謝ることができましたか。謝ろうかどうか迷ったことはありませんか。

○ 指導上の留意点・支援等

事前アンケート「わざとではないけれど〇〇されたこと」について提示し、教材文の主人公と反対の立場の人の気持ちにまず触れるようにする。その後、「自分がしたときはどうだったか」と問うことで善悪の判断について想起し、ねらいとする道徳的価値への方向付けを図る。

児童が、自分事として考えることができるように、場面絵の出る指導者用デジタルブックを使用し、場面絵は黒板掲示にも用いる。

(2) 展開 自分の考えをワークシートに書く。

教師： こわそうな顔をしたおぼさんと目が合う前に下を向きました。そのとき、どんなことを考えたと思いますか。

A児： 謝ったら怒られるかな。だまっていたらばれるかな。どっちにしよう。

B児： このままだまっていた方がいいのかな。それとも正直に言った方がいいのかな。

C児： やっぱり謝った方がいいかな。お母さんにばれたら怒られるかもしれないし。

D児： おぼさん、気付いているかな。お母さんはいつもわざとじゃないけど何かしたら謝りなさいって言っているから、言った方がいいのかな。謝った方がいいから謝ろう。

○ 指導上の留意点・支援

迷った時の気持ちを「あやまろう」「だまっておこう」の2つに分けて板書する。自分の考えに近いもの下にネームプレートを貼ることで、心の中の葛藤を自分自身の関わりとして考え、主体的に教材と向かい合うことができるようにしていく。また、謝る理由・謝らない理由それぞれについて、「よい」か「よくない」か考えさせ、児童の道徳的価値を広げていく。

30年近くたって、おばさんの笑顔が忘れられないわけを考えることで、正しい行いをする気持ちよさについて感じるができるようにする。

(3) 終末 今までの自分について考え、振り返りをする

教師： みなさんが発表した言葉に、「よいと思うこと」には赤線、「よいと思わないこと」には青線を引いています。今までの自分はどうでしたか。これからどういう自分になりたいですか。

A児： 今まで謝っていました。正直に言った方がいいし、相手もいい気持ちになるからです。

B児： 私はわざとじゃないけど、人とぶつかったことがあって、ごめんなさいと言いました。

C児： 今までの自分は、そんなに正直に謝ったことがなかったけど、今度から正直に謝って心がすっきりしたいです。

D児： 今までもちゃんとしていたけれど、これからも続けたいと思いました。

○ 指導上の留意点・支援

これまで正しい行いできていたかどうかを振り返り、今までの自分についての振り返りを書くことで、自分の生き方についての考えを深めるようにする。最後に、ねらいとする道徳的価値に迫るために、1年あたらしいどうとく「あのね」の読み聞かせをする。

### 3 評価について

正しいと思ったことは、進んで行おうとする心情を育てることができたか。

【方法：発言・ワークシート】

### 4 実践を振り返って

振り返りでは、「あやまらなければいけないと頭では分かっているけども勇気が出ない。」と正直に打ち明けているものがあつた。「あやまった方がよかつたんだな。これからもそうしよう。」「今度からはあやまってころがすっきりしたい。」など、これまでの自分の行動について自信をもつたものや今後の自分の行動につなげようとしたものもあつた。

「30年近くたって、おばさんの笑顔が忘れられないのはどうしてか」という問いでゆさぶることにより、勇気を出して正しい行いをする、相手だけでなく自分も嬉しい気持ちになるということに気付かせることができた。



～親切、思いやり～

山陽小野田市立有帆小学校

1 本授業におけるポイント

- 「発問の工夫」として、「価値観を出し合う発問」「価値観を広げる・深める発問（考え、議論する）・中心発問」「自己の言動・生き方を見つめる発問・指示・語り」の3つを柱として、指導に当たる。
- 「話し合いの工夫」として、タブレット（ロイロノート）を活用して、全員の意見を出し合い意見交換をすることで、自信をもって発表したり、友達の意見の傾向を視覚的に捉えたりすることができる。

2 授業の実際

1 主題・教材名 みんなが楽しく「ぼくのボールだ」（日本文教出版）

2 ねらい

ぼくがとった2つの行動は、親切といえるか考え、議論する活動を通して「本当の親切」とは相手のことを考えて行動することであることに気付かせ、進んで親切にしようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 今までに自分が行ったことのある親切を想起する。

教師： 今までにどんな親切をしたことがありますか。  
 A児： けがをした友達と一緒に保健室に行きました。  
 B児： スーパーに行ってエレベーターに乗った時、後からベビーカーを押ししてきた人が入りやすいように、ボタンをずっと押し続けてあげました。  
 C児： 学校に来るとき、寒い日だったのでマフラーを貸してあげました。



○ 指導上の留意点・支援等

事前にアンケートをして、実態を把握しておく。また、児童が発表した親切についての価値を認めながら、本時の価値への方向付けをする。

(2) 展開 「ぼく」がとった2つの行動について考え、議論し、「本当の親切」へとせまる。

教師： 「ぼく」がとった2つの行動は、「本当の親切」だったと思いますか。まず、1回目の「声をかける」ことはどうですか。  
 A児： 声をかけたのは親切だったと思います。断られて残念だったけれど、勇気を出して声をかけたからです。  
 B児： 親切だと思います。声をかけられるだけでも、おばあさんは嬉しかったと思うからです。  
 C児： 親切にならなかったと思います。結局、おばあさんの力にはならなかったからです。  
 D児： どちらとも言えない気がします。声をかけるだけでも相手は助かるかもしれないけれど、役に立ったのかどうかは、分からないからです。  
 教師： 2回目の「見守る」ことはどうですか。  
 E児： 親切にはならないと思います。見ているだけで、何もしていないからです。  
 F児： 同じ意見です。役に立っていないし、おばあさんに気付いてもらえていないからです。

G児： 親切だと思います。何もしていないし気付いてもらえていないけれど、いざという時に、すぐに力になることができるからです。

H児： どちらか、よく分かりません。

教師： 何がよく分からない？

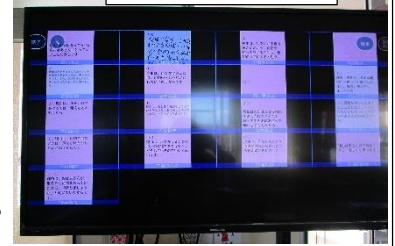
H児： おばあさんに気付いてもらえなくても、おばあさんのことを心配してついて行ったわけだから・・・。

教師： 「心配している」ってHさんは言ったけれど、1回目に「声をかけた」時には、この気持ちはあったと思いますか。

I児： あったと思います。

教師： なるほど。1回目も2回目もいろんな意見が出たけれど、おばあさんのことを心配している気持ちは共通しているんだね。

### 1回目の親切



### 2回目の親切



#### ○ 指導上の留意点・支援等

自分の意見をロイロノートに提出する時に、「親切（ピンク）」「親切ではない（水色）」と用紙の色を変えることで、視覚的に分かりやすくし、自分とは異なる意見について考えさせたり、友達の見解のよさに気付かせたりする。「親切になる」方向へ意見が傾いたら、提出し直し、そう考えた理由や気持ちを引き出すことで「本当の親切」とは何かを考える方向へと導いていくことができるようにする。

#### (3) 終末 自分のこれまでの言動について考え、ノートに書く。(今まで・これから)

教師： 今まで自分のしてきた親切は、「本当の親切」だったかどうかを振り返り、これからどんな行動をしていきたいか考えましょう。

A児： 相手のことをよく考えてから、できることをしていきたいです。

B児： 相手のことを思っていたら、見守ることも親切になると初めて知りました。

C児： すぐ手助けするのではなく、よく考えてから手助けしていきたいと思いました。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

本時の学習をもとにして、今までの自分を振り返るとともに、これから親切にするときに大切なことは何かを確認しながら、これからの自分について考えさせる。

### 3 評価について

#### ○ 評価方法

付箋に書いてある理由、授業中の発表をもとにして児童の思いが変容したのか、新しい発見があったのかを見取る。

- ・ 「親切ではない」「よく分からない」という意見を出した児童に変容はあるか。
- ・ 「親切」には、相手へ状況によっていろいろな形があることに気付き、進んで親切にしようとする気持ちをもつことができたか。

### 4 実践を振り返って

今まで自分がしてきた親切について見つめ直すよききっかけとなる教材だった。一部の児童の意見で授業を進めるのではなく、全員の意見を出し合えたことで、多くの考えに触れることができたことはよかった。これからは、相手の立場に立ち、相手が必要としていることができる「親切」を広め、紹介していきたい。

## ～正直、誠実～

山陽小野田市立高千帆小学校

### 1 本授業におけるポイント

- 主人公の葛藤する心情について多面的・多角的に話し合う活動を仕組むことで、何事に対しても真面目に真心を込めて行動することの大切さや難しさを捉えさせる。
- 1人1台端末を活用して意見交換することで、「誠実さ」について多面的・多角的に捉えるとともに、他者理解ができるようにする。

### 2 授業の実際

1 主題・教材名 誠実に生きる「手品師」（日本文教出版）

2 ねらい

自分の夢と男の子との約束の間で揺れる手品師の思いについて考えることを通して、どのような状況にあっても、常に誠実に行動し、明るい生活を心がけようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 教材の中心場面と同様の経験を想起し、課題意識をもつ。

教師： 「自分の夢に向けた大切な予定」と「友達との大切な約束」が重なってしまった経験はありますか。

A児： 友達が転校するので、最後にみんなで遊ぶ約束をしたけど、サッカーの公式戦と重なってしまって悩んだことがある。

B児： ピアノの発表会があるけど、友達の誕生日会が重なってしまった。

○ 指導上の留意点・支援等

中心場面と似たような身近な事例を提示することで、自分事として考えることができるようにする。

(2) 展開 葛藤する主人公の心情について考え、話し合う。

教師： みんなは、「男の子」と「大劇場」のどちらに行きたい気持ちに共感できますか。

【男の子】

A児： 先に男の子と約束をしていたから。

B児： 男の子にとっては自分しかないから。

C児： 男の子は自分を必要としてくれているから。

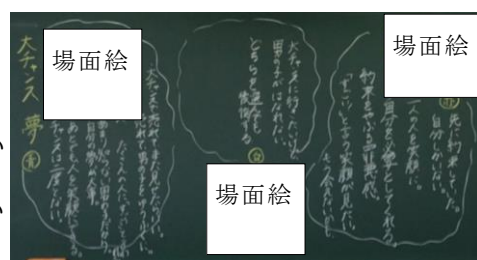
【大劇場】

D児： たくさんの人に「すごい」と言われたいという、夢を大切にする気持ちが共感できる。

E児： せっかくの大チャンスだから、逃すわけにいかない。

【決められない】

F児： どちらを選んでも後悔するような気がして、選べない。



○ 指導上の留意点・支援等

「男の子」「大劇場」「決められない」の3つについて、自分が最も共感できるものを選び、ロイロノートの付箋機能で色分けをして意見交換をすることで、どのように考えて行動することが誠実なのか、多面的・多角的に捉えるとともに、多様な意見から他者理解ができるようにする。



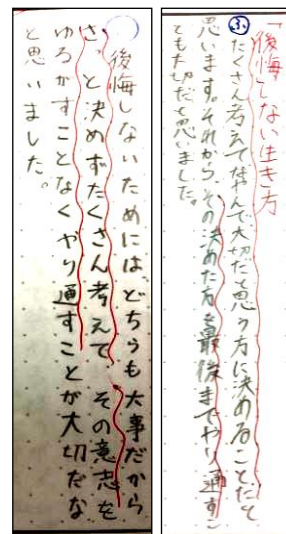
また、どちらも大切であることを前提として話し合いを進めることで、3つの心情を共感的に捉えられるようにする。

### (3) 終末 教師の説話を聞き、これまでの自分を振り返り、「誠実に生きるために大切なこと」について考えたことを発表する。

教師： 誠実に生きるためにどんなことが大切だと思いましたか。  
A児： 自分の行動したことについて後悔しないように、自分の将来ことも相手の気持ちのことも考える必要がある。  
B児： 自分にとって本当に大切なことを考えて、後悔しないようにする。  
C児： 取り返しがつかないこともあるから、考えて考えて、しっかり考えて決めることが大切。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

教師の説話を通して、自分を犠牲にすることは「誠実」ということではないこと、また、周囲に流されてしまうことは「誇り」や「自信」を失ってしまうことにつながることに気付かせる。



## 3 評価について

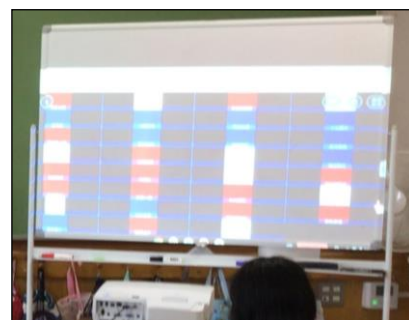
#### ○ 評価方法

- ・ 「誠実な行動」は、優先する道徳的価値等により多様な行動が考えられるなど、「誠実」について多面的・多角的に捉えようとしているか。（発表・道徳ノート）
- ・ 道徳的価値についての多面的・多角的な理解の基に、自分自身なら後悔しないためにどうすればよいか考えようとしているか。（発表・道徳ノート）

## 4 実践を振り返って

### 【成果】

- ・ 導入では、中心場面と似たような身近な事例を提示することにより、自分事として考えさせるとともに、教材の主題を意識させることができた。
- ・ タブレット（ロイロノート）を使うことで、一人ひとりの考えを示し、共有することができた。  
また、色分けをして示したことで、学級内にも様々な考えがあることを短時間で理解することができた。
- ・ 全員で共有する前に、「書く時間」を確保したことで、全員が自分の考えをもって主体的に交流することができた。



### 【課題】

- ・ 「大劇場に行って手品をして、有名になった後で男の子のところへ行く」という方法論がみられた。キーワードを提示したり、設定を板書に残したりするなどの工夫が必要である。
- ・ 展開では全体での共有のみだったが、「同じ考え同士」または「違う考え同士」で交流するなどの時間を確保できれば、他者理解が一層深まったのではないかと考える。

～伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度～

山陽小野田市立高泊小学校

1 本授業におけるポイント

- 児童の思考を促すための構造的な板書と教材提示（動画・実物）
- 道徳的価値に迫るための場面発問とテーマ発問の使い分け
- 価値項目に精通したゲストティーチャーの授業参加

2 授業の実際

1 主題名・教材名 守りたい日本の文化「ふろしき」（日本文教出版）

2 ねらい

風呂敷の実演を見て、そのよさに興味をもった「わたし」の気持ちを考えることを通して、日本の伝統や文化のよさに気づき、それらを継承し、発展させていこうとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 風呂敷を提示し、事象への接近を図る。

教師： みなさんは、この布を知っていますか。  
 A児： ハンカチやスカーフみたいだけど・・・。  
 B児： おじいちゃんの家で見た風呂敷に似ています。  
 教師： 昔から日本で使われている「風呂敷」という道具です。

○ 指導上の留意点・支援等

道徳の導入においては、授業内容に間わる事象から入る方法と価値項目から入る方法の大きく2通りがある。今回、「ふろしき」という授業を行うにあたって、本学級には生活経験に乏しい児童が多く、社会科で昔の道具を学ぶ学習もまだ行っていないため、風呂敷の実物を提示し、事象への接近から導入を行っていくこととした。使用した風呂敷も教材文になるべく近くなるように、桜の花びらが舞っているデザインの物を使用した。その後、先ほどの風呂敷を提示しながら教材文を範読することで、児童が教材の世界に入る込むことができるように、授業の雰囲気づくりに心がけた。

その成果もあり、児童は積極的にワークシートに書き込んだり、発言したりするなど、授業の活性化につながった。

(2) 展開 テーマ発問に取り組み、主題への接近を図る。

教師： なぜ「わたし」は、風呂敷について友達に教えたり、話し合ったりしたいと思ったのでしょうか。  
 A児： みんなで風呂敷を実際に使ってみたいから。  
 B児： 昔の人はすごかったということを伝えたいから。  
 C児： 昔の道具でも便利だから、そのよさを教えたいから。  
 D児： 私も知らなかったから、このおどろきを伝えたいから。

○ 指導上の留意点・支援等

発問も大きく分けて2つのタイプがある。場面ごとに登場人物の心情を問う「場面発問」と価値項目を問う「テーマ発問」である。「場面発問」は児童にとって考えやすいが、求める価値に到達しない場合もある。一方のテーマ発問は、主題に迫る深い問いであるが、それゆえに、思考を苦手としている児童にとっては、難易度の高い問いになってしまう。そこで、今回は、心情

を考えることが苦手な児童のために、展開部分の前半は「たんすを開けて、きれいな布を見つけた時、わたしはどのようなことを思ったのでしょうか」などの場面発問を行い、教材の世界の中に没入することを優先した。その後、テーマ発問を行うことで、日本文化のすばらしさや良さについて言及できるようにした。

また、児童の思考を助ける手段として、ペアでの話合いや席を移動しての自由討論の時間を設けることで、思考の活性化を図った。

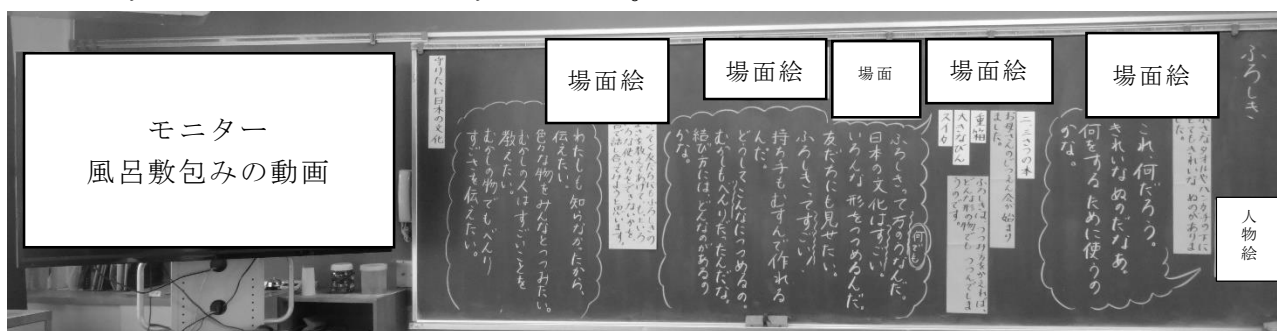
### (3) 終末 ゲストティーチャーによる説話。動画や日本の伝統的な道具の提示。

教師： ゲストティーチャーに日本の文化についてお話をしてもらいましょう。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

今回、地域に呼びかけ、伝統文化に詳しい方に授業に参加していただいた。日本文化の代表格である着物に精通しておられる方で、事前に授業のねらいと、どのような話をしていただきたいかの打ち合わせをしておくことで、風呂敷のみならず、着物やせんすなど多岐にわたる日本文化のよさを児童に伝えることができた。

また、自分が用意しておいた重箱などの伝統的な道具を紹介するとともに、風呂敷包みを実演する動画を流すことで、児童はより深く日本文化について考えることができたと考えられる。



### 3 評価について

- ワークシート上段に記述させた展開前段の発問への答え
- ワークシート下段に記述させた展開後段の振り返り
- 授業における発問の内容（板書を画像データとして保存する）

### 4 実践を振り返って

今回の学習では、場面絵やセンテンスカードを掲示して授業の足跡を残すとともに、動画やゲストティーチャーを導入して各活動に取り組んだ。このことで、多様な日本文化に触れる学習環境をつくり、児童の思考を促す効果があったと考えられる。また、場面発問だけではなかなか思考が深まらず、真にねらいとしている主題まで到達できないことがあるため、今回は授業の後半でテーマ発問を行った。そのことで、児童は「日本文化の良さ」について考えを深めることができていたように思う。

なお、課題としては、今回、「なぜわたしは、ふろしきについて、友達に教えたり、話し合ったりしたいと思ったのでしょうか。」というテーマ発問を行ったが、児童は世界観によく浸り、深い思考をすることができていた。そこでもう一段思考を進めることができるような、より深い発問を行い、ゲストティーチャーを含めて話し合うことができれば、さらに多様な意見が出たのではないかと考えられる。



～友情、信頼～

下関市立川中中学校

1 本授業におけるポイント

- 本校は、普段は4～6人の小集団で話し合いを行い、全体へ発表するという形式で行うが、今回の題材は「友達」に関する事なので、できるだけたくさんの級友と話す機会をつくりたいと考え、学級内で自由に意見を交換し合う形式で議論させる。
- 自分とは違う考えや自分では思い付かなかったような友達の意見を記録させることで、考え方は1つではない、多様であることを理解させる。また、最後の感想を書く際に3つの視点「今までの自分と比べてみて」「新しい考えを発見」「これから生かしたい」を提示することで道徳的価値の理解を深めやすくする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 本当の友情とは「違うんだよ、健司」（日本文教出版）

2 ねらい

「健司が教えてくれた大切なこと」とは何かを考えることを通して、「本当の友情」とは何か、友情が成立するためには何が必要かに気付かせることで、友達をよき理解者として心から信頼し、互いに励まし高め合い、協力し合おうとする実践意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 「どんな友達が欲しいか」を考えてみる。

教師： 今日のテーマは「本当の友情とは」です。ちょっと照れ臭いけど、みんなで「友情」について考えます。突然ですが、みんなはどんな友達がほしいと思っていますか。

生徒： 優しい友達。

生徒： 面白い友達。

生徒： 気が合う友達。

教師： やっぱり、一緒にいて楽しい友達っていいですね。ところで、あなたたちは「一生の友達」に、もう出会っていると思いますか。いくつになっても続いている友達です。あと少しでみんなは中学校を卒業し、高校、大学、就職、いろんな人と出会いと別れを繰り返しますよね。そんな中でも、いつまでもこの人は友達と言い合える関係です。人によるかもしれないけど、そうたくさんできるものではないと思いますよ。「本当の友情」が成立していないと、一生の友達にはなれないかもしれませんね。

○ 指導上の留意点・支援等

本教材は真の友情について、生徒が共感しやすい教材である。「友情」は中学3年生にとって身近なテーマではあるが、ただ、普段は照れくさくてあまり友情について語り合うことがないように思われる。「どんな友達がほしいか」を聞き、今の友達関係について考えさせ、卒業したら今の友達もばらばらになってしまうことや、教師の体験談を話すことで、教材に対する興味をもたせた。

## (2) 展開 今日のテーマについてみんなで考える。

教師： 教材の範読、中心発問の提示  
「健司が教えてくれた大切なこと」とは、何だろう。きっと今日のテーマ「本当の友情」って何か、につながるんじゃないかと思います。  
生徒： 友達なら相手のことを思い、知ろうとすること？  
生徒： 友達を頼っていいということ。  
生徒： 本当の友達なら人に流されるのではなく自分の気持ちを言うこと。  
生徒： 適当に合わせた付き合いは本当の友情ではないということ。

### ○ 指導上の留意点・支援等

まずは自分のまわりの人、その後は学級内を自由に動き回り、たくさんの人の意見を聞いて回り、自分の考えをまとめさせることにした。考えやすい内容なので、仲の良い友達と積極的に交流していたが、一部の友達とばかりの話合いにならないように、全体の様子を見ながらできるだけたくさんの級友と意見の交換をするように促した。全体への発表は、無作為に指名し、できるだけたくさんの生徒に発表させた。

## (3) 終末 教師による集約・説話、感想文の記入をする。

教師： 発表の集約と説話  
みんなが考えた「健司が教えてくれた大切なこと」をまとめると、友達とは「相手のことを思って行動できること」「信頼できること」「高め合える存在であること」ということですね。つまり、これをお互いが感じられる友達が「本当の友情」の成立した関係といえるのではないのでしょうか。この3人もいろんなことを乗り越えて「本当の友情」に近付いてきたのだと思います。「優しい友達」「面白い友達」「気が合う友達」様々な友達がいるでしょうが、「本当の友情」が成立した「一生の友達」に出会えるといいですね。  
生徒： 「今日の授業で分かったこと」「今日のハッとした友達の意見」「今日の授業を通して考えたこと（感想文）」を書く。

### ○ 指導上の留意点・支援等

教師による集約・説話は、生徒の発表で出てきた意見を取り入れながら、主題に対する教師の考えを話す。最後の感想文の記入は、自己を見つめる大切な時間なので、10分程度は時間がとれるように心がける。普段は感想文のテーマを設けるが、今回は、3つの視点を提示し、授業で感じたことを自由に書かせた。

## 3 評価について

- T2による見取り（2回に1回程度はT2が授業に来ることになっているので、授業中の生徒の様子を見て授業評価シートに気付きを記入する）
- ワークシートの感想（よりよい生き方や考え方を模索するような記述が見られたか）
- ワークシートの「今日の授業で分かったこと」の欄（ねらいに即した記述があったか）

## 4 実践を振り返って

本校は長年、全校統一の「型」（発問、個人→小集団→発表、説話・感想文）で全教員が授業を行っている。どの教員でも、スムーズに授業が進められる一方、マンネリ化してしまう恐れもある。今回は、題材の内容を考え、型から離れた授業展開を行ってみた。生徒たちもいつもと違った雰囲気、活発に議論できたように思う。今後も、効果的な指導方法の研究や授業改善に取り組みたいと思う。

～礼儀～

下関市立熊野小学校

1 本授業におけるポイント

- 主人公の行動を確認し、「自分だったらどうする？」と問いかけることで、自分事としてとらえられるようにする。
- タブレットを使って全員の心情シーソーを電子黒板に提示することで、友達と話し合いたいという気持ちを高め、「はい」か「いいえ」だけではない様々な思いを表現しやすくする。
- 授業で出たキーワードをまとめ、「道徳コーナー」として掲示することで、学習したことを普段の生活に生かせるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 れいぎ正しく「小さなできごと」（光文書院）

2 ねらい

「わたし」の言動について考え話し合う活動を通して、礼儀正しくすることの大切さに気付き、日常生活で気持ちのよいあいさつ、言葉づかい、動作などを心がけようとする心情を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 「礼儀正しい」とは何かを考える。

教師： 「礼儀正しい」という言葉で思い浮かぶことはなんですか  
 A児： よそに行ったときに、礼儀正しくしなさいと家の人に言われます。  
 B児： きちんとあいさつができることです。頭を下げてあいさつします。  
 C児： キラキラの心をもっていることです。  
 D児： ルールを守るのは礼儀正しいと思います。

○ 指導上の留意点・支援等

まず、「礼儀正しい」という言葉をどんな時に聞いたことがあるかを問いかける。保護者に「礼儀正しくしなさい」と言われた体験があると考えられるので、どんな時に言われたか、どんなことが「礼儀正しい」のかをイメージさせる。教材文に関しては、全員が内容を理解しやすいように、あらかじめ登場人物の絵を掲示し、あらすじを話してから範読をする。

(2) 展開 「わたし」の行動と気持ちについて話し合う。

教師： 「わたし」は足を踏んだあと、下を向きました。みんなだったら、謝りますか、謝りませんか。  
 A児： 悪いことをしたのだから、謝ります。でも、こわい。  
 B児： 放っておいたら、もっと怒られるかも。  
 C児： 怖いから、謝る気になれません。  
 教師： どうして「ごめんなさい」と言ったのでしょうか。  
 D児： お母さんの言葉を思い出したからだと思います。  
 E児： 勇気を出したからです。  
 F児： 謝らないでいると、だめな人になってしまうからです。



○ 指導上の留意点・支援等

自分の考えを可視化するため、心情シーソーを使って数値で表示する。単

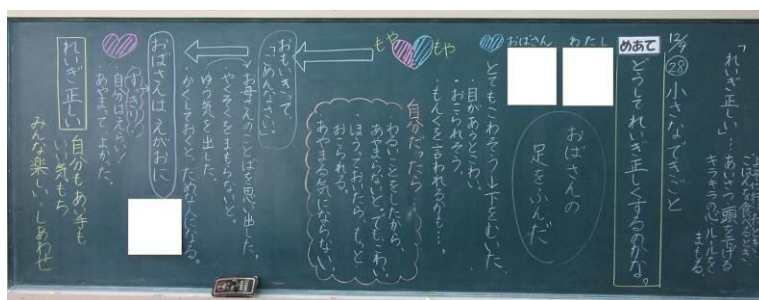
純な「はい」か「いいえ」ではなく、数値と色で表すことで、微妙な気持ちを自分の言葉で表現できるようにする。また、人と比べて、どうしてそうなったのか聞いてみたいという気持ちももてるようにする。「わたし」と「おばさん」の気持ちを考えさせることで、勇気を出して謝ると相手だけでなく自分の心も軽くなることに気付かせる。

### (3) 終末 今までの自分を振り返り、これから気を付けたいことを考える。

教師： 今までの自分を振り返って、これからがんばること、続けたいことなどを考えてみましょう。  
 A児： 悪いことをしてしまったとき、きちんと謝ることができているので、ずっと続けたいです。  
 B児： みんなが気持ちよくすごせるように、礼儀正しくします。  
 C児： あいさつが大切だと思うので、これからも大きな声と笑顔であいさつします。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

児童の発言から、本時の学習のキーワードをみんなで押さえる。その際、導入で出てきた意見や本時のめあてを再度振り返り、改めて礼儀正しくすることの大切さを確認する。それから、今までの自分を振り返って、思ったことやこれから心がけることなどをワークシートに書かせる。



## 3 評価について

- 話し合い活動で、心情シーソーを使って自分の思いを表現し、友達と話し合うことで、より考えを深めたり広げたりしていたかを見取る。
- ワークシートの項目ごとの記述を見て評価をする。振り返りでは、新たな価値や自分のよさなどへの気付きを通して、道徳的価値の理解を深められたかを視点に評価を行う。

## 4 実践を振り返って

タブレットを活用して全員の心情を可視化することができた。その表示をもとに、ペアやグループで、「どうしてそう思うのか」を話し合う活動を通して、発言が少ない児童も伝え合うことができた。考えの違いや、どうしようという迷いがあること、共感や反論の言葉も聞こえ、真剣に考えを伝え合う姿が見られた。児童が自分の思いを表現する足掛かりとしての心情シーソーは有効であったと考える。ただ、児童の発言を残すためにもワークシートと併用することと、どんな場面で使うかをしっかりと研究して活用していくことが必要であると感じた。



道徳コーナーへの掲示を継続して行っているが、学んだことをいろいろな場面で振り返るのに大変役立った。

～生命の尊さ～

阿武町立阿武小学校

1 本授業におけるポイント

- 命を救い守り抜こうとする緒方洪庵の姿の尊さから、生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情や態度を育むことができるようにする。
- 価値の本質に迫るために、牛痘接種を現代、初めて受けることに抵抗感があった当時の人々と、風評被害にも負けず使命を全うしようとした洪庵の思いを対比できるような発問を仕組み、命を大切にすることについて多面的・多角的な思考を促す場の設定をする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 「命の種を植えたい一緒方洪庵一」（日本文教出版）

2 ねらい

困難を抱えながらも、命を救い守り抜こうとする緒方洪庵の姿の尊さから、生命のかけがえのなさを自覚し、生命を尊重する心情や態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 現代は予防接種の恩恵によって病気で苦しむ人々が減ったことを知らせ、予防接種がない時代のことに思いをはせる。

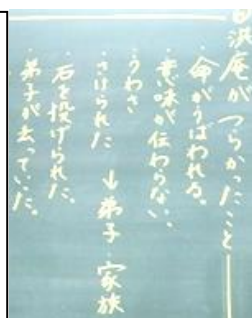
教師	： 今は医学が進歩していますが予防接種がもしなかったらどうなると思いますか。
児童A	： 病気にかかりやすくなる。
児童B	： たくさんの人々が病気で苦しんだり、亡くなったりする。
児童C	： もしかしたら、大切な人もなくなっているかもしれない。

○ 指導上の留意点・支援等

身近な人との死別を体験した児童がいることを配慮し、天然痘は現代はなくなっていることを知らせる。「伊達正宗」等の歴史上の人物を取り上げながら、江戸時代に多くの命が奪われた病気であったことを知らせる。また、「もし予防接種がなかったら」と想定することで、病気にかかりやすい状況について想像する。

(2) 展開① 江戸時代に初めて予防接種を受けようとする人々の思いと風評被害を受けながらも牛痘種痘の効果を訴え続けた洪庵の思いを対比させる。

教師	： 「天然痘から人々を救いたい」と人々に訴え続けた洪庵でしたが、つらかったことは何ですか。
児童A	： 身近な人の命がうばわれていくこと。
児童B	： 天然痘をばらまいているとうわさされること。
児童C	： 家族や弟子までも避けられたり、石を投げられたりしたこと。
児童D	： 種痘が理解されにくかったとしても、人々が洪庵にしたことはひどいな。
教師	： 今は無料で予防接種が受けられることもありますが、江戸時代に生きていたら、この種痘を受けますか。
児童A	： 受けたくない。この種痘が安全かどうか分からないから。
児童B	： 受ける。人々の命を守ることににつながるから。

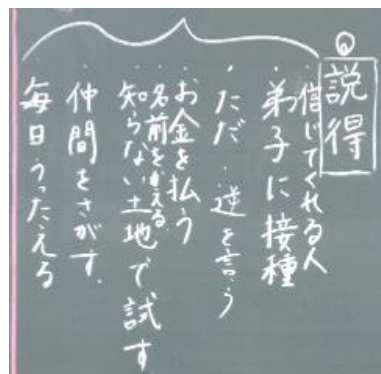




○ 指導上の留意点・支援等

緒方洪庵が当時の人々から理解されなかった苦しみを「自分だったらどんなことがつらいか」と想像させることにより、共感できるように仕組む。また、現代でも予防接種に抵抗感をもつ児童は多いが、江戸時代に今まで誰も受けたことがなく、効果も確認できないまま牛痘種痘を受ける人々の不安や恐れを想像させる。

(2) 展開② 命を守り抜こうとする緒方洪庵が、反対する人々にも説得を試みて、種痘を始めることができた粘り強さについて話し合う。



教師： 自分が緒方洪庵だったら、どのようにして種痘を広め、人々の命を守りますか。  
 児童A： 弟子に接種して効果があることを証明する。  
 児童B： 同じ考えの仲間を探す。  
 児童C： 毎日訴える。

○ 指導上の留意点・支援等

直前に接種を受けたくないと言った児童も、逆の立場に立って説得する方法を考えた。そうすることで、緒方洪庵の苦勞を感じられたようだ。

(3) 終末 命を大切にするとはどのように生きることなのかを話し合う。

教師： 命を大切にすると、どのように生きることなのでしょう。  
 児童A： 自分にできる最大限の力を 振りしぼって生きること。  
 児童B： 自分だけで生きているわけではないから、周りの人の命も大切に生きていくこと。みんなの命を守ること。  
 児童C： 毎日、毎日を大切に生きること。

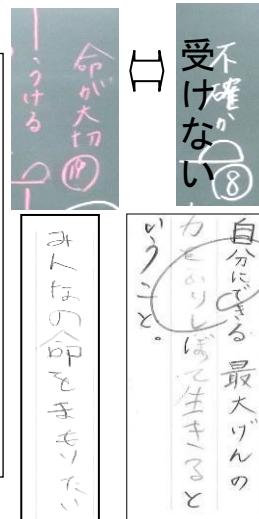
3 評価について

○ 評価方法

再度、自分だったら牛痘種痘を受けるかどうかと聞いた。児童は赤白帽子で意思表示した。赤：受ける 6割 ⇔ 白：受けない 4割

○ 評価の工夫

受けると言った児童の理由は、「接種して病気の流行を減らすことで社会全体の命を守ることができるから」だった。また、4割ではあるが「効果が不確かだから接種は受けない」という児童がいた。しかし、「自分の命も大事」と、命を大切にするという理由があった。接種を受けるか受けないかで意見が分かれたが、双方とも、命をどのように守っていくかということについて十分に考えた様子が見られた。



4 実践を振り返って

緒方洪庵の生き方を通して、じっくりと「生命の尊さ」について考えることができた。接種を受けることは、自分だけでなくまわりの人の命までも守ることにつながると唱えて実践した緒方洪庵の崇高さに触れながらも、自らの命が家族とのつながりの中で生かされていることに気付き、迷う児童の姿があった。答えは、これからもじっくりと考え続けていくべきことであった。

～感謝～

阿武町立福賀小学校

**1 本授業におけるポイント**

- 話合いの工夫
 

本校は全児童9人で、完全複式学級である。本校の重点取組事項は「積極性」と「表現力」で、全教育活動を通してこの2点の向上を目指している。道徳科においても、児童の思いや考えをためらわずに表出できるよう取り組んでいる。本学級（児童2名）では、日々の授業を通して本音の話合いができるよう以下の点について継続して取り組み、成果を挙げている。

  - ・ 相手の方を観て、最後まで話を聞く。
  - ・ 意見表明の際は指名せず、「私が言います。」と、率先して発言する。
  - ・ 相手の考えに対して、必ず自分の考えを発表する。
- 家庭や地域社会との連携
 

本地域は、保護者だけでなく地域の方々がいちいちいろいろな学校行事に積極的に参加して下さるため、地域の方々に対して感謝の気持ちは強い。本授業では、保護者の方にも授業に参加してもらい、児童と一緒に考える時間を設定した。

**2 授業の実際**

1 主題・教材名 つたえたい言葉は「いつもありがとう」（日本文教出版）

2 ねらい

安心で安全な生活ができるのは、時には厳しくとも自分達を守ってくれる人がいるおかげであることに気づき、尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする態度を養う。

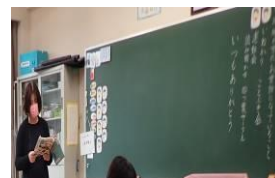
3 学習指導過程

(1) 導入 地域の方々にお世話になっていることを考え、発表する。

教師： 地域の方々にお世話になっていることはありますか。

A児： ことぶき会の方に、稲刈りでお世話になった。

B児： 四つ葉サークルの方が、読み聞かせに来てくれる。



○ 指導上の留意点・支援等

地域の方々と一緒に実施した行事などを想起させ、たくさんの方々にお世話になっていることに気付かせた。

(2) 展開 「ぼく」の気持ちや伝えたい言葉について考えたことを発表し合い、それについて話し合う。

教師： 伝えたい言葉がたくさん浮かんできたのは、「ぼく」の心の中にどんな気持ちが膨らんできたからでしょう。

A児： 悪いことをしたから、申し訳ないという気持ち。

B児： これからは、おじいさんの言うことをきこうという気持ち。

B児： つっけんどんにして、ごめんなさいって伝えたいかも。

A児： あやまってから、いつもありがとうって伝えたいと思う。



○ 指導上の留意点・支援等

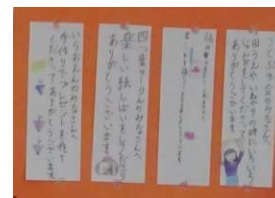
道徳ノートに自分の考えを書かせた後、対面になり、自分の考えを言い合うようにした。気持ちを考えるだけでなく、どんな言葉を伝えたいと思っているかも考えさせ、話し合うようにした。

(3) 終末 自分達も、地域の方々に伝えたい言葉はどんな言葉かを保護者の方と一緒に考えて、短冊に書く。

教師： お世話になっている地域の方々に伝えたい言葉は、どんな言葉ですか。短冊に書きましょう。

A児： 町おこし協力隊の方へ、無角和牛について教えていただき、ありがとうございました。たくさんを知ることができました。

B児： 交番の方へ、毎朝、横断歩道の所に立ってくださり、ありがとうございます。これからも、元気な声であいさつをします。



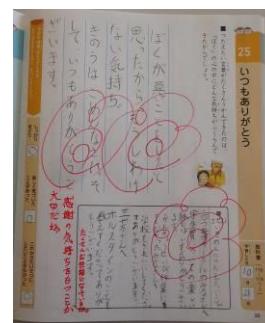
○ 指導上の留意点・支援等

短冊に書くことによって、たくさんの方々に世話になっていることに気付くことができた。保護者の方と一緒に考えることによって、より多くの地域の方々と関わりがあることに気付けるようにした。

### 3 評価について

○ 評価方法

- ・ 道徳ノートの記述により、道徳的な価値の理解の深まりを見る。
- ・ 話し合いの中で、いろいろな考えがあることを知り、それぞれを尊重し合っているかを見取る。
- ・ 短冊に書くことによって、尊敬と感謝の気持ちをしっかり伝えようという気持ちをもっているかを見る。



### 4 実践を振り返って

本学級は2名のため、多様な考えに触れることは難しいが、自分で考えたことは進んで発表し合えるような環境づくりに日々取り組んでいる。本授業では、日頃からお世話になっている地域の方々に感謝の気持ちを伝える内容だったので、比較的取り組みやすかった。保護者の方にも授業に入っただき、一緒に考える活動を通して、児童だけでは気付かないことにも気付くことができ、児童は改めてたくさんの方々に世話になっていることを感じることもできたようだ。短冊に感謝の言葉を書くだけで終わらず、後日、学習発表会で地域の方々をお招きした際に、掲示して見ていただくことができた。これからも、地域の方々にはいろいろな場面でお世話になるので、感謝の気持ちを持ち、それを児童が自分から進んで表せるような支援を続けていきたい。



～ 勤 労 ～

岩国市立由宇中学校

**1 本授業におけるポイント**

- 自分の考えの理由や根拠をしっかりともち、自分の考えを付箋に書き出すことによって自己開示をする。その後、周りの人に伝え、興味をもって他者の意見に耳を傾け、自分の意見との違いについて考えをさらに深められるような「話合いの工夫」をしている。
- 授業前半で葛藤場面を生み出す「広げる発問」で生徒の心を揺さぶり、広く意見を引き出す。そして、授業後半には「深める発問」でその時間のねらいに迫っていくような「発問の工夫」に取り組んでいる。

**2 授業の実際**

- 1 主題・教材名 働くということ「おばちゃんのくれた“おまじない”」  
(日本文教出版)

2 ねらい

働く喜びを得て自分の仕事に誇りをもつことが充実した生き方につながることを理解して、主体的に将来の生き方を考えようとする実践意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 「働く」と聞いて、どんなことをイメージするか考える。

教師： 「働く」と聞いて、どんなことをイメージしますか。  
 A児： 家族を養っていくために働く。  
 B児： 自分が好きなことで、やりがいを感じられる職業に就きたい。  
 C児： 自分の好きなことをする職業に就いたとしても、もし、仕事でつらいことがあったらどう乗り越えていくのだろうか？好きな思いだけで続けられるのだろうか？

- 指導上の留意点・支援等  
 数名の生徒の意見を発表させることにより、興味をもって他者の意見に耳を傾ける雰囲気づくりをする。

(2) 展開 おばちゃんのおまじないとどう向き合っていくか考える。

教師： おばちゃんのおまじないを胸に、今後『私』はどう生きていくと思いますか。  
 A児： 何事にも全力で一生懸命に向き合う。  
 B児： 相手のことを第一に考える。  
 C児： 仕事に取り組む際に、気持ちを込める。

- 指導上の留意点・支援等  
 やりがいをもって仕事を続ける「私」の勤労観を通して、仕事の意義

について深く考えさせる。また、相手のことを考えた懸命な仕事が喜びや誇りを生み、充実した生き方につながるということも考えさせたい。

### (3) 終末 将来の職業でどんなことを求めるか考えを深め、意見交流をする。

教師： 今までの自分を振り返り、今日の授業を通して「将来就くであろう職業に、どんなことを求めるか」考えたことをワークシートに書きましょう。その後、付箋に自分の考えを書いて、いろんな人と意見交流しましょう。

A児： 自己満足せずに、人の役に立てるようになりたい。

B児： 仕事を通して、人の心の穴をうめたい。心を込めて取り組んでいきたい。

C児： 困っている人を笑顔で助ける職業に就きたい。

D児： 人に対する感謝の気持ちをもち続けて、仕事に取り組みたい。

E児： いろいろな人と関わり、自分と違う考えの人とも出会いながら、自分はどうしたらいいのか見付けていきたい。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

将来に目を向けさせながら、仕事の意義について各自がどのように考えたのかをワークシートにまとめた上で、自分の考えを付箋に書かせる。黒板に付箋を貼りながら、周りの人に伝え興味をもって他者の意見に耳を傾け、自分の意見との違いについて考えをさらに深めさせる。



## 3 評価について

授業中の発言内容とワークシートの記入で評価した。毎回、授業の最後は必ず自分の経験を振り返りながら主題についての思いをまとめる時間を設けている。

## 4 実践を振り返って

自分の意見を書いた付箋を提示することにより、意思表示をしやすい雰囲気になり、生徒も安心して自分の考えを述べ、議論するようになった。さらに、付箋を用いて1時間の学びのポイントの掲示物を制作することにより、考えたことが視覚的に捉えられ、機会があるたびに振り返っている。

また、ねらいに迫る主発問（深める発問）をよく吟味して焦点化できるように設定していかなければならない。ギャップやジレンマを活用した発問もしながら、論点を整理していくことも大切だと感じた。

～親切、思いやり～

岩国市立通津小学校

**1 本授業におけるポイント**

- 日常生活で起こり得る場面をもとに、道徳的価値の本当の意味や意義について、改めて考えさせる。
- 友達と自由に意見を交流する場を設定し、児童が他者と対話をする中で自分の考えを確認したり、新しい気づきを得たりできるようにする。

**2 授業の実際**

- 1 主題・教材名 ボランティアとは「ええことするのは、ええもんや」  
(日本文教出版)

2 ねらい

人に親切にすることは立派なことだが、それだから親切にするのではなく、助けられた人がうれしいから親切にするのだということに気づき、進んで親切にしようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

- (1) 導入 今までにだれかに親切にしたときのことを考える。

教師： 誰かを助けてあげたことがありますか。それはどんな場面でしたか。  
 A児： 勉強で分からないところを教えてあげた。  
 教師： どんな気持ちで助けてあげたのですか。  
 A児： なんとなく。困っていたから。

- 指導上の留意点・支援等

今まで友達に親切にすることはあっても、どんな気持ちで行ったのかを考える児童は少ない。助けてあげて立派だ、ということで終わらず、親切にする側の心情について改めて意識させる。

- (2) 展開 「おっちゃん」を助けようとしたときと、その後の心情の違いから、親切が何のためなのかを考える。

教師： どうして「マナブ」は「おっちゃん」を助けたのでしょうか。  
 A児： 車いすで大変そうだから。  
 B児： おっちゃんが困っているから助けたい。  
 教師： 周りから「えらいね」って言われなくなったとき、「マナブ」はどんな気持ちで車いすを押していたでしょう。  
 C児： もっと見てほしい、褒めてほしい。  
 D児： やっている意味がない。

教師： だれのための親切なのでしょうか。

F児： 最初はおっちゃんのために始めたのに、最後は自分が褒められるためになっている。

○ 指導上の留意点・支援等

最初に助けようとしたときは純粹に相手のためだったにも関わらず、周りから褒められる中で「ボランティア」をする自分に満足して相手のことを考えられなくなっている「マナブ」に気付かせる。

自分の意見を他者と交流する場を設定する。交流する際には、自分の意見を伝えるだけでなく、相手の意見を聴くことを意識させる。

(3) 終末 これからの親切に対する自分の捉え方を考え、ノートに書く。

教師： これから先、ボランティアをしたり、誰かに親切にしたりすることがあれば、どんな気持ちで行いたいですか。

A児： 誰も見てなくても、進んでやれるようになりたい。褒められなくてもいいからやる。

B児： 自分のためじゃなくて、相手のためにやりたい。

C児： 困っている人を気遣う。本気で助けようと思う気持ち。

○ 指導上の留意点・支援等

「マナブ」の心情を捉えさせる中で、自分のこれまでの体験を思い起こさせる。誰かが見ているからやる、褒められたいからやるという経験がどの児童にも一度はあると考える。この授業を終えて、これからはどのような気持ちで生活したいかを考えさせる。

### 3 評価について

○ 自分の考えは道徳ノートに書かせることを基本とし、他の児童と対話する際にノートを活用できるようにするとともに、評価の材料とする。

○ 自分の考えだけでなく、他者の意見を聞いて自分の意見を再構築する際には、2つを分けて書かせることで道徳的価値の深まりが見取れるようにする。

### 4 実践を振り返って

授業を通して、道徳的価値の意義や意味を改めて考えさせることの大切さに気付くことができた。今後は、人物の心情を問うだけで終わらず、自分のこととして捉えさせるための発問を吟味していきたい。また、教師と児童、児童同士の対話をどう進めていくのが効果的なのかをこれからも考えていきたい。

～親切、思いやり～

岩国市立灘小学校

1 本授業におけるポイント

- 今回は、①「行為の意味」と②「気配りのリレー」という2つの資料を活用した。そこで、資料ならではの学習内容を明確にさせ、以下の2つに設定した。

①優しい思いは、カタチ（行動）にしなければ、相手に伝わらないということ。  
 ②勇気を出して親切にするには、自分のことだけでなく、相手の立場に立って考える必要があるということ。

その上で、発問の工夫として、2つの教材で共通して、「勇気を出して、気持ちをカタチにするには、何が必要か。」と問い、それぞれの教材の特性を生かした気づきを引き出すことにした。

- 話合いの工夫として、展開前半でACジャパンのCMやポスターを活用した際に、ペアでの相談を短い時間で複数回行うことで、互いの意見を共有できるようにし、対話の活性化を図った。さらに、導入と振り返りの2回、ミライシードのオクリンクの機能を活用し、個々の「思いやり」のイメージを全体で共有できるようにした。

2 授業の実際

- 1 主題・教材名 心づかいと思いやり・「行為の意味、気配りのリレー」  
(日本文教出版)

2 ねらい

「思い」と「思いやり」の違いや、実際に行動に移すために必要なことについて話し合うことを通して、相手の立場に立って考え行動することの大切さに気づき、他者に親切にしようとする実践意欲を高める。

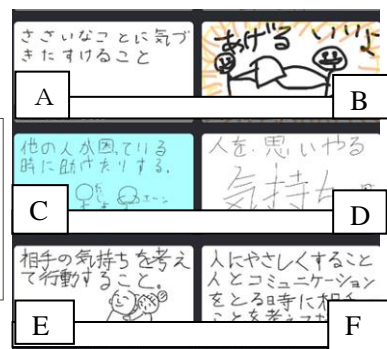
3 学習指導過程

(1) 導入 「思いやり」についてのイメージを発表する。

教師： 「思いやり」とは何でしょうか？ミライシードのオクリンクで意見を書いて、提出箱に出しましょう。

A児： ささいなことに気づけること

D児： 人を思いやる気持ち



- 指導上の留意点・支援等

提出させるまでに時間がかかるため、本授業では、授業前の朝学習（10分程度）を使って意見を書かせておいた。授業導入時に全体で画面を共有し、何人かに発表させた。

(2) 展開前半ACのCMやポスターを見せて登場人物の行動について話し合う。

教師： 男の子は、なぜ席を譲れなかったのでしょうか？

A児： 知らない人だったから

B児： 勇気が出なかったから。

C児： 恥ずかしかったから。

D児： 言葉が思いつかなかったから。

教師： 男の子は、なぜ支えることができたのでしょうか？

A児： 他に誰もいなかったから。

B児： おばあさんがこけたら危ないから。

C児： 相手が優しそうだから。

D児： 妊婦さんが嬉しそうだったから。

- 指導上の留意点・支援等

登場人物（高校生ぐらゐの男子）の行動に着目させ、着目する場面を限定した。



教師：（ポスターを見せて）ノートに「思い」と「思いやり」の違いを書きなさい。  
 A児： 思いは、自分で思っているだけで、他の人には見えない。思いやりは、行動に移しているから、他の人にも見える。  
 教師： 勇気を出して、気持ちをカタチにするには、何が必要ですか？  
 A児： 後悔した経験      B児： 行動力      C児： 優しい思い  
 D児： きれいな心      E児： 強い心      F児： 恥ずかしさを乗り越える気持ち

○ 指導上の留意点・支援等

A Cのポスターを提示し、具体的な場面を想起させながら「思い」と「思いやり」の違いを考えさせた。その後、主発問をし、主に自分の中での心の成長が必要なことをおさえた。

(3) 展開後半 「心配りのリレー」を読み聞かせ、気持ちを行動にするために何が必要か再度考え、発表する。

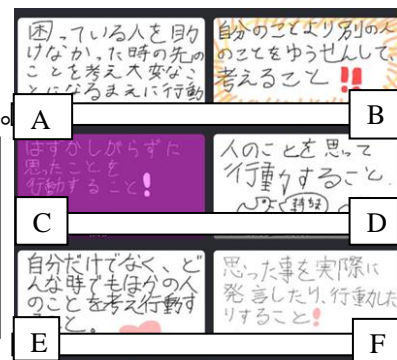
教師： 先頭の女性の行動を参考に、もう一度考えます。勇気を出して、『その気持ちをカタチにする』には、何が必要ですか。  
 A児： 他の人のことを考える気持ち。      B児： 強い心  
 C児： 他の人も仕事の人がいるかもしれない。

○ 指導上の留意点・支援等

挿絵を電子黒板で示しながら読み聞かせをした。そして再度、同じ発問をし、本教材では、他者に目を向けることの必要性をおさえた。

(4) 終末 「思いやり」とは何か、もう一度考え発表する。

教師： 「思いやり」とは何でしょうか？もう一度改めて考えて、オクリンクで意見を書いて、提出箱2に出しましょう。  
 A児： 困っている人を助けなかった先のことを考えて行動する。  
 D児： 人のことを思って行動すること。



### 3 評価について

教員が授業評価をする際に、オクリンクを活用して授業前と終末の2回提出させることで、児童が学習内容をどれだけ理解しているか見取りやすい面があった。また、児童の授業評価をする際に、個々の児童なりに、道徳的価値について理解を深め、より多面的・多角的な見方ができるようになっていれば、評価に生かすことができると考えられる。

### 4 実践を振り返って

- ・ 動画や写真の一場面を切り取り、具体的な場面を基に考えることで、ペアでの対話が活性化したり、全体でも意欲的に発表したりできた。
- ・ オクリンクで、「思いやりとは何か」を提出させ、全体で共有したことで、全員が自分の意見をもって授業に参加し、学習内容を振り返りながらまとめることができた。一方で、提示しただけでは全体で意見を共有したとは言い難い面が残った。これからは、提示した後に、どのような活動を仕組みればよいかを意識して実践に取り組みたい。
- ・ 今回は、2つの教材で共通の発問をすることで、より深く「思いやり」について考えを深めていくことができた。しかし、学習内容を1つに絞り、より焦点化した授業展開も考えられる。例えば、学習内容①の「行動に移すことの必要性」に絞り、実際に親切にできそうな場面を動作化することで、自分事として考えさせることも可能である。

～よりよい学校生活、集団生活の充実～

周防大島町立大島中学校

1 本授業におけるポイント

- 1人1台端末を活用して全員の意見を全員で共有する場を設けることで、様々な意見を取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりする仕組みを取り入れた。
- ペアや立ち歩きでの意見共有など、問いによって意見共有の形を変えて効率よく多くの意見を取り入れられる場を設けた。

2 授業の実際

1 主題・教材名 「誇りを胸に・四十七年に感謝を込めて」(東京書籍)

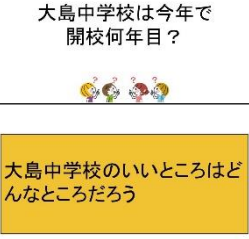
2 ねらい

心を1つにして「140メートルののり巻き」を作る南中生の思いに共感するとともに、学校に対する誇りと感謝の気持ちをもって、自らの果たす役割を自覚することで、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 ①今年度で大島中学校が開校何年目かについてクイズを出す。(Google スライド使用)

②大島中学校のいいところを始めるの考えに書く。

<p>教師： 大島中学校が今年で開校何年目かについてクイズを出題。</p> <p>生徒： 学校行事の回数などをヒントに回答を発言していく。</p> <p>教師： 「〇〇年目だと思う人」と問いながら挙手をさせる。</p> <p>教師： 正解を発表し、長年続く大島中学校のいいところを始めるの考えに書かせる。</p> <p>生徒： 他学年と仲が良い、挨拶ができる、自然に囲まれている、などと回答。</p>	<div data-bbox="1230 1043 1517 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>大島中学校は今年で開校何年目？</p>  </div>
--	--

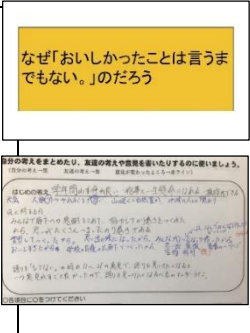
○ 指導上の留意点・支援など

- ・ スライドで視覚的資料を常に提示しておき、いつでも問いを見られるようにしておく。
- ・ 手が止まる生徒には「自慢できるところ」などと言い換えて考えさせる。

(2) 展開 ①本文の範読を聞く。

②「おいしかったことは言うまでもない。」という一文について考える。

③誇りを「もつ」ときと「もたない」ときの違いを考える。

<p>教師： なぜ「おいしかったことは言うまでもない。」のかについて個人で考えさせる。</p> <p>生徒： 個人の考えをワークシートに書き込む。</p> <p>教師： 立ち歩いて自由に意見共有をするように指示をする。</p> <p>生徒： 立ち歩いて多くの級友と話しながら意見を共有する。級友の意見は青色でメモ。</p> <p>教師： 着席させ、意見を発表させる。</p> <p>生徒： 学校の自慢の広廊下で作ったから、みんなで協力して一生懸命作ったのり巻きをまずいとは思えないから、広廊下への感謝を込めて協力して作った思い出がたくさん</p>	<div data-bbox="1294 1729 1544 2060" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>なぜ「おいしかったことは言うまでもない。」のだろう</p>  </div>
---	--

ん詰まったのり巻きだから、みんなが1つになって作ったから、などと回答。

教師： 出た意見から、南中生にとって広廊下がどんなものを問う。

生徒： 思い出、象徴、青春の1ページ、宝物、特別、誇り、などと回答。

(誇りは出なかったのちから程度誘導して提示。)

教師： 感謝や思い出も含めた「誇り」の気持ちを「もつ」ときと「もたない」ときの行動や思いにはどんな違いがあるかをパドレットに入力させる。

生徒： パドレットに自分の意見を入力する。

教師： 入力された意見をいくつか取り上げながら生徒の意見を聞く。

学校に対して誇りを「もつ」ときと「もたない」ときではどんな違いがあるだろう

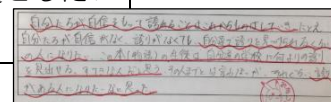
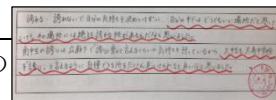


○ 指導上の留意点・支援など

- ・ 協力して行動することや自分の役割を果たすことの背景には、誇りや感謝の気持ちがあることを考えさせる。
- ・ 誇りの気持ちが背景にあると、よりよく行動したり生活を送ったりするようになることに気付かせる。

(3) 終末 「大中学生としてどんなことを大切にしながら過ごしたいか」というテーマで振り返りを書く。

教師： 大中のいいところや、南中生の思い、誇りを「もつ」ときと「もたない」ときの違いなどを思い返しながら、「大中学生としてどんなことを大切にしながら過ごしたいか」をテーマに振り返りを書いてください。



○ 指導上の留意点・支援など

自分事として振り返らせる。(自分だったら、自分の学校だったら、など)

### 3 評価について

○ 評価方法 (ワークシート)

① 自由記述欄を見取る。

(自分の意見を書いているか、他の意見は青色でメモをしているか、他の意見を聞いて自分の意見が変わったところを赤色で線を引いたり書きかえたりしているか、など)

② 振り返りを見取る。

(始めの考えを含めたり比較したりして考えているか、他の意見を参考にして自分の考えを広げたり深めたりしているか、など)

### 4 実践を振り返って

- 校内研修の主題との関連でICTの活用を取り入れて実践した。生徒の様々な意見を一度に共有できるものを使用し、多くの考えを聞いたり問い返したりしながら考えを深めていった。
- 今回は「誇り」からよりよい学校生活について考えさせる授業にしたが、関連付けが難しかった。
- 校内の授業研修で、先生方にもアドバイスや感想をいただいたが、「なぜのり巻き作りを選んだのか」という問いから「全校生徒が心を1つにして何かをする」という視点で、よりよい学校生活・集団生活の充実につながるよう考えを深めていく方がより効果的に思いを引き出せそうだった。

～規則の尊重～

周防大島町立久賀小学校

1 本授業におけるポイント

- 自分の考えを確かめるための、ペアによる話し合い
- 主人公の心情変化を可視化できる教具「気持ちメーター」の活用

2 授業の実際

1 主題・教材名 きまりの大切さ 規則の尊重 「よりみち」 (東京書籍 新しい道徳)

2 ねらい

寄り道を軽く考えて行動してしまった主人公の言動や気持ちの変化を考えることを通して、きまりを守ろうとする道徳的心情を育む。

3 学習指導過程

(1) 導入 通学路とその役割をおさえてから、自分の下校時の様子を思い出させ、寄り道をした**い気持ちもあることを意識づける。**

教師： 通学路はどうして決まっているのですか。

A児： 安全だから。交通事故にあわないように。

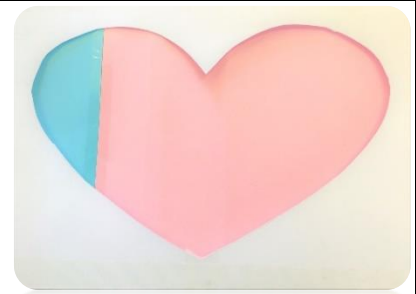
B児： 誘拐されないように。

教師： 寄り道をしようかなと思ったことがありますか。

そのときの自分の気持ちを「気持ちメーター」に書いてみよう。

A児： 寄り道をしようと思った。迷った。(8名)

B児： 寄り道をしたことがない。(7名)



○ 指導上の留意点・支援等

気持ちメーターを使って自分の気持ちを目で見分けるようにすることで、自分にも規則を破ってしまう**気持ちがあることを意識付ける。**

(2) 展開 寄り道をしている時からお母さんの涙を見るまでの主人公の気持ちを、気持ちメーターで示し、ペアで話し合ったりロールプレイで演じたりして**気持ちの変化を考える。**

教師： 子犬を見ている時のみさきさんの気持ちメーターはどんなだろうか。(記入した後、ペアで話し合い)

A児： 子犬がかわいくて、うれしかったから赤が多いと思う。

B児： 楽しいけど、寄り道をしていることが気になっているから、少し青もあると思う。

教師： 動けなくなったみさきさんの気持ちメーターはどんなだろうか。(記入した後、ペアで話し合い)。

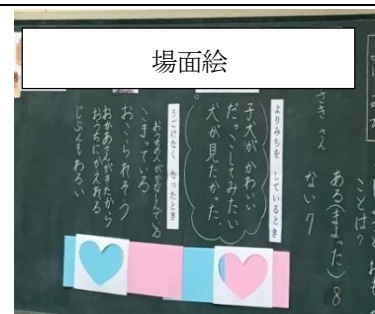
A児： 悪いことをしてしまったから怒られる。寄り道しなければよかったと思っているから、青が多い。

B児： おうちの人が悲しんでいるから、困っている気持ちだから青が多い。

教師： すごい顔をしたお母さんと先生の気持ちは、どんなだろうか。

A児： 心配していて、怒っていると思う。

B児： ずっと帰ってこないから、悲しい気持ちだと思う。



C児： みさきさんが心配で探していて、やっと見つかったからほっとしている気持ち。  
 D児： みさきさんが見つけて、喜んでいると思う。  
 教師： お母さんと先生の涙を見たみさきさん。この後2人にどんなことを言ったと思いますか。  
 (ロールプレイで発表する)

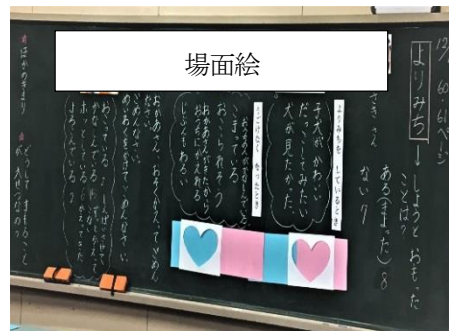
A児： お母さん、寄り道をして遅くなってごめんなさい。  
 B児： 迷惑をかけてごめんなさい。早く帰ればよかった。  
 C児： もう、寄り道をしない、行かないって約束する。

教師： 発表して、どんな気持ちになりましたか。  
 A児： 心配かけたんだなって思って悲しくなった。

B児： もう寄り道は絶対しないって思った。

教師： 次の日、学校から帰るみさきさんの気持ちメーターはどんなだろうか。  
 (記入した後、ペアで話し合い)

A児： お母さんや先生を悲しませたので、寄り道をしないって決めたから青が多いと思う。  
 B児： 青が多いけれど、少しだけ寄り道をしてしまうかもしれないという気持ちがあると思う。



○ 指導上の留意点・支援等

気持ちメーターに自分の意見を記入した後ペアで話し合うことで、自分と同じ意見、違う意見を知って、自分の考えを広げられるようにする。

お母さんと先生の気持ちを問う発問では、2人の気持ちに気づきやすいように、ワークシートに気持ちの選択肢を設定し、選んだ理由を考えさせる。

ロールプレイの発表の前に各自で練習させ、みさきさんの気持ちに近づく雰囲気をつくる。

(3) 終末 きまりを守ることに對する自分の思いや考えを書く。

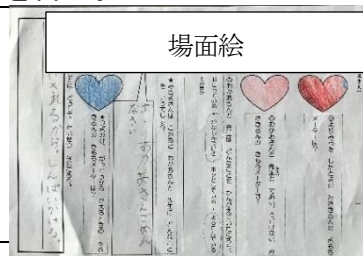
教師： どうして、きまりを守ることは大切なのでしょう。

A児： だれかに心配をかけるから。

B児： 周りの人に迷惑をかけるから。

C児： 自分やみんなを守るため。

D児： 自分が悪い人になって悪い人の仲間になってしまうから。



○ 指導上の留意点・支援等

児童が授業の始めの考えから変わったと分かる発言をした時は、考えが変わったことを高く評価して、これからの生活につなげられるようにする。

「きまりを守る」ことを考えることが難しい児童には、「みさきさんは、どうすればよかったのか」と問い、考える視点を与える。

**3 評価について**

評価の観点は「自己を見つめる」「自己の生き方について考えを深める」の2点である。

評価項目は「お母さんの涙を見たときのみさきさんが考えていたことについて『きまりを守ること』に関わる自分の気持ち」と「どうして決まりを守ることが大切なのか」を書けたかで、自分の生活を振り返って書いているかを見取る。評価方法は、授業中の話し合い、発言内容、ワークシートに記入した児童の言葉による。

**4 実践を振り返って**

ペアでの対話は、皆の前での発言が苦手な児童も考えを述べる場面ができ、話すことによって考えがまとまったり、友達の意見で考えを深めたりすることができて有効であった。

気持ちメーターのように、気持ちを可視化できるようにすると、考えやすくなった。

～生命の尊さ～

周南市立熊毛中学校

1 本授業におけるポイント

- ICTを活用して、それぞれの立場を数直線上に表すことで、友達の感じたことや思ったことを交流できる場面を設定した。
- 様々な立場から「命の選択」について考えさせることで、人生の終末期における「自己決定」について多面的・多角的に考えさせる場面を設定した。

2 授業の実際

1 主題・教材名 「看取りの医者」（廣濟堂あかつき）

2 ねらい

医師、家族、自分自身と立場を変えて延命治療について考える活動を通して、自己決定の大切さと難しさに気づき、自己の生き方を考え続けていこうとする道徳的実践意欲を培う。

3 学習指導過程

(1) 導入 医師の仕事について知り、資料の内容を確認する。

教師： そもそも医者ってどうやったらなれるのだろう。  
 生徒： 医師になるには沢山勉強しないとイケないので難しい。

○ 指導上の留意点・支援等

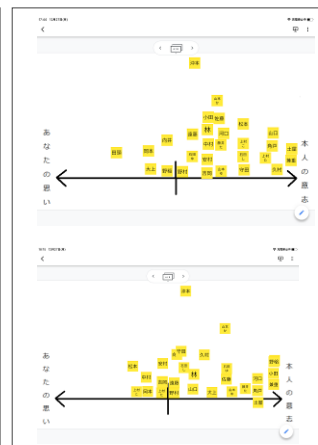
様々な立場から考えていく上で、医師の立場に立って考えるというのは生徒にとって分かりにくい。医師とはどのような仕事で、どのような思いをもって医師になったのかを考える事は、筆者の気持ちに寄り添って考えるために必要であると考えた。

また、延命治療を希望しない桑田さんと医師である筆者だけでなく、桑田さんの奥さんの気持ち、看護師やヘルパーの気持ちなど、複雑に絡み合っているため、整理させる。

(2) 展開 医師の立場、家族の立場で延命治療について考える。

教師： もし桑田さんが助かる可能性が50%あるならば、延命治療をするか。  
 A児： その人の人生だから、本人の意思を尊重すべき。  
 B児： 奥さんの思いをくんで、治療すべき。  
 C児： 医師として50%でも可能性があるならば、挑戦したい。

教師： あなたの大切な家族が重病を患い、その本人が「延命治療は必要ない」と言ったら、あなたは延命治療を望むか。  
 A児： 限られた時間で1日1日を大切に思い出をつくらせていきたいので治療しない。  
 B児： 大切な家族が、器具をつけて苦しんでまで生きる姿を見たくないで治療しない。  
 C児： 少しでも長く一緒にいたので治療してもらいたい。



○ 指導上の留意点・支援等

I C T (Jamboard) を使って、患者本人の意思を尊重する（治療しない）べきか、医師の考えで決める（治療する）べきか、自分の考えがどちらかを数直線上に表し、まわりの友達がどう考えているかをタブレットの画面で確認させることで、話し合いの際に、自分と同じ考えの人、異なる考えをもつ人それぞれの意見を聞くことができるようにした。始めは医師の立場に立って、考えさせた後、自分の家族が重病を患ったらどうかという発問をすることで生徒の考えに揺さぶりをかけたい。また、2つ目の発問では、より自分事として考えやすくするために「延命治療をすれば一ヶ月はその本人と一緒に過ごす時間を作ることができる。」「延命治療をしなければ、明日にでも亡くなる状態である。」と具体的に状況を設定する。

(3) 終末 「命は誰のものなのか」というテーマで作文を書く。

A児： 人に流されず、自分の意志をしっかりとって生きていきたい。  
B児： 親からもらった大切な命なので親の意思も尊重し、自分を大切に生きていきたい。  
C児： 命は自分自身のものであるけれど、自分を大切に思ってくれている人のためのものでもあると思います。

○ 指導上の留意点・支援等

意志決定に基づく尊厳をもった生き方について意識して考えさせるため、作文を書かせる前に、「あなた自身が余命1ヶ月と言われ、家族が延命を希望したらどうするか。」という発問を投げかけることで、揺さぶりをかける。

### 3 評価について

○ 終末の生徒の作文では、自分の事として考えられるテーマを与えて書かせる。  
○ ワークシートに「考える」「伝える」「聴く」「学び合う」という4つの項目について4段階で自己評価させる。

考える	伝える	聴く	学び合う
・課題について真剣に考えたか。	・自分の考えを言えたか。 ・自分の考えが友達に伝わったか。	・友達の考えを真剣に聴いたか。	・学び合いによって自分やグループの考えが深まったか。

### 4 実践を振り返って

考え、議論する時間を確保するため、I C Tを上手く利用することをテーマに研修した。これまで自分の意見の立場を明らかにするため黒板にネームプレートを貼っていたところを、タブレット端末を使うことで、時間の短縮を図ることができた。また、その場面で黒板も使わないため、黒板を有効に使うことができた。また、タブレット端末に表示することで、クラス全員の意見をしっかりと見せることができ、多様な考え方に触れさせる事ができた。これからの課題は、活発に意見を出し合うことができる発問の設定や、自分以外の考えに目を向ける揺さぶりの発問などについての研修を深めていきたい。

～親切、思いやり～

周南市立高水小学校

1 本授業におけるポイント

- 役割演技を取り入れた体験的な学習にすることで、実際の場面を実感を伴った活動にし、道徳的な価値の理解を深め、解決に必要な資質・能力を養うようにした。

2 授業の実際

1 主題・教材名 優しい気持ち「はなばあちゃんがわらった」(東京書籍)

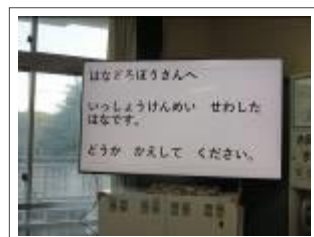
2 ねらい

友達やお年寄りなどに優しい気持ちを持ち、相手を大切に思う心情を養い、進んで親切にしようとする意欲を高める。

3 学習指導過程

(1) 導入 親切にするとは、どんなことなのかみんなで話し合う。

教師： 親切にするとはどういうことですか。  
 A児： やさしくすること。  
 B児： 困っている人がいたら助けてあげる。  
 C児： 手伝ってあげる。  
 教師： 人に親切にしたことはありますか。  
 A児： 片付けを手伝った。  
 B児： こけて泣いているときに保健室まで一緒に行った。



○ 指導上の留意点・支援等

導入では、児童一人ひとりが自分事として問題意識がもてるように、親切についてどのように捉えているのか、また、今までどんな親切をしたことがあるのか振り返らせ本時の内容に関心や意欲をもたせるようにした。

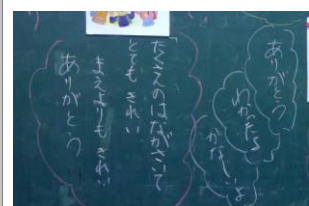
また、教材を絵本のように場面ごとに提示して読み聞かせることで、内容をしっかりつかませるようにした。

(2) 展開 役割演技を通して、はなおばあちゃんのために花を描いたり、作ったりしている子どもたちの気持ちを考える。

教師： どんなことを思いながら花を描いたり、作ったりしているのかな。  
 A児： はなおばあちゃんのためにがんばって作ろう。  
 B児： よろこんでくれるといいな。  
 C児： おばあちゃんが悲しそうにしているから、元気にしたい。  
 D児： 元気になってまたいつものように見送ってほしいな。  
 E児： はなおばあちゃんが育てた花よりも、もっときれいな花を作ってびっくりさせたいな。



教師： 子ども達で作った花を見たおばあちゃんは、どんな気持ちになったでしょう。  
 A児： ありがとう。とてもうれしいよ。  
 B児： たくさんの花がさいてとてもきれい。  
 C児： 前よりもきれい。元気がでたよ。





○ 指導上の留意点・支援等

中心発問を考える場面では、役割演技を取り入れた。はなおばあちゃんを元気づけるために、折り紙やクレヨンでたくさんの花を作ったり描いたりしている子ども達の気持ちを自我関与させて発言できるようにした。

役割演技後は、インタビューを行い、その時の気持ちを聞いた。即興で答えることで児童の素直な気持ちを表現させるように工夫した。

また、できるだけ多くの児童に発言させることで、多様な意見に触れることができるようにした。

(3) 終末 自分はこれからどうしたいか振り返る。

教師： 今日の学習を振り返って、これからどうしたいか考えましょう。

A児： わたしも、困っている人がいたら助けてあげたいです。

B児： 「ありがとう。」と言われるとうれしいので、自分も親切にしたいです。

C児： 親切にしたら、その人が喜んでくれるのでやってみたいと思いました。

D児： だれにでも、優しく、親切にしたいです。

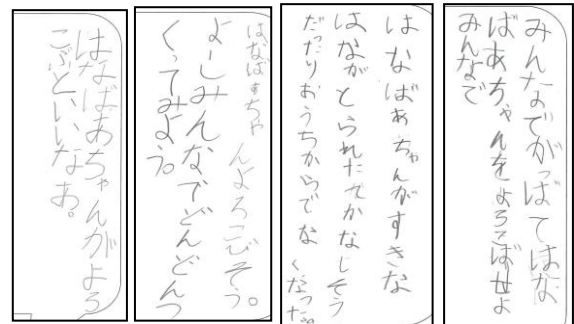


○ 指導上の留意点・支援等

子どもたちから、手作りの花をプレゼントされたときははなおばあちゃんの喜ぶ姿を感じとらせた。その後、本時の学習を通して、これから自分はどうしたいのか発言させることで、児童自身の生活につながるような振り返りを行った。

### 3 評価について

○ 評価は、ワークシートと役割演技後と振り返りの発言から行った。ワークシートの作成に当たっては、1年生の児童の実態に合わせて、書く内容は中心発問だけにした。振り返りの場面では、全員にこれから自分はどうしたいと思うかを発言させることで評価の参考とした。



### 4 実践を振り返って

児童の中には、教材に出てくる「はなおばあちゃん」と同様な存在として「見守り隊」のおじさんを思い浮かべる子も多かっただろう。毎日の登下校を見守ってくださる方の姿がある日突然見えなくなる。そのことの重大さは、児童にも共感しやすい内容であった。授業では、教材の読み聞かせを紙芝居風に行うことで内容をつかみやすくし、考え話し合う時間を十分に確保することができた。また役割演技後にインタビューすることで、児童の本音を引き出すこともできた。

課題としては、授業前に児童の実態をつかんでおくことが必要だと感じた。振り返りでは、児童の前向きな発言をたくさん聞くことができたが、この授業を通じた児童の変容を見取るところまでは至らなかった。

## ～希望と勇気、克己と強い意志～

防府市立華陽中学校

### 1 本授業におけるポイント

- 題材として取り上げてある画家・菱田春草の写真や絵を、教材提示装置で大きく見せることによって、生徒に題材の内容をより身近に感じさせる。
- 個人の意見をグループで交流させ、多面的・多角的な思考を促す機会を設定する。

### 2 授業の実際

1 主題名 希望と勇気、克己と強い意志 「『落葉』—菱田春草」(光村図書)

#### 2 ねらい

日本画に新しい画法や考え方をもたらした菱田春草の生涯を描いた文章を読み、信念や意志について考えることを通して、逆境にあっても希望や強い意志をもって生きていこうとする心情を育てる。

#### 3 学習指導過程

(1) 導入 本時で扱う題材、内容について確認し、資料を読む。

教師： 自分で決めて取り組んできたことで、途中でくじけてしまったことはありますか。

生徒A： 部活動の練習がきつくてやめなくなった。(結局はやめなかった)

生徒B： 毎日1ページ苦手教科の学習に取り組もうとしたが、続かなかった。

教師： 今日は、自分で決めたことをやり抜くために必要な「強い意志」について考えていきたいと思います。この人を知っていますか？

○ 指導上の留意点・支援等

長続きできなかった理由などもたずねることで、本時のねらいへとつなげる。また、写真を提示することで、題材をより身近に感じさせることができる。

(2) 展開 春草が作品を書き続けられた思いと、その源について考える。

教師： 春草が、世の中の人に認められなくても、作品を描き続けられたのは、どんな思いがあったからでしょう。(ワークシートへ記入後、周囲と意見交流を行い、発表)

生徒A： 自分なりの絵をずっと描き続けたいと思ったから。

生徒B： 自分の絵をこの世に広めて、絵をどんどん進化させたかったから。

生徒C： 自分で決めたことだから、認められなくてもやり遂げようという思い。

教師： 春草の強い意志の源は、何だったのでしょうか。←中心発問

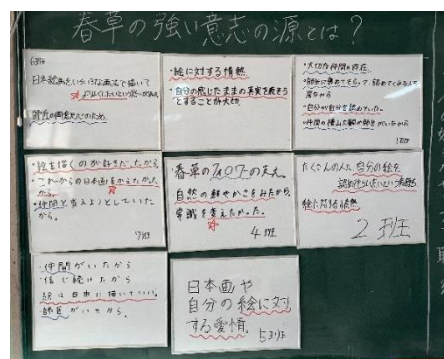
(ワークシートへ記入後、3、4人のグループで意見交流を行い、ホワイトボードに記入して黒板に提示)

A班： 絵に対する情熱。たくさんの人に、自分の絵を認めてもらいたいという気持ち。

### ○ 指導上の留意点・支援等

周囲やグループで意見交流を行うことで、様々な角度から物事をとらえることができる機会を設ける。

ホワイトボードに書かれた意見を色分けしてアンダーラインを引き、「自分の強い思い」「日本画への思い」「仲間の存在」の3つに意見を分類できることを視覚的に理解させる。



### (3) 終末 今日授業をふまえて、自分自身の今後の生活で大切にしたいことを記述する。

生徒 D: みんなが実力を認めてくれなくても、がんばっていればいずれ認めてくれる人がいると信じて、がんばってみようと思います。

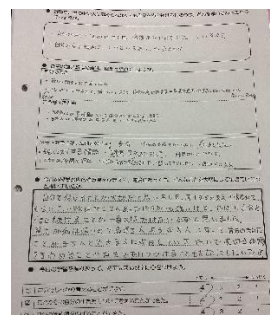
生徒 E: 自分が正しいと思えば、やり続けていきたいです。そのときやめて、後々後悔するよりはいいと思います。

生徒 F: 自分の思いを大切に、さらに自分の周りの人たちの思いにも耳を傾ける事が必要だと思う。また、強い思いがあるなら、その分認めてもらえるよう努力し、自分の芯を強くもっておきたい。

生徒 G: 一番は自分の気持ちが一番大切なのかなと思った。周りの親や友達、先生に認めてもらって応援してもらうためには、自分の強い意志と行動が大切だと思いました。

### 3 評価について

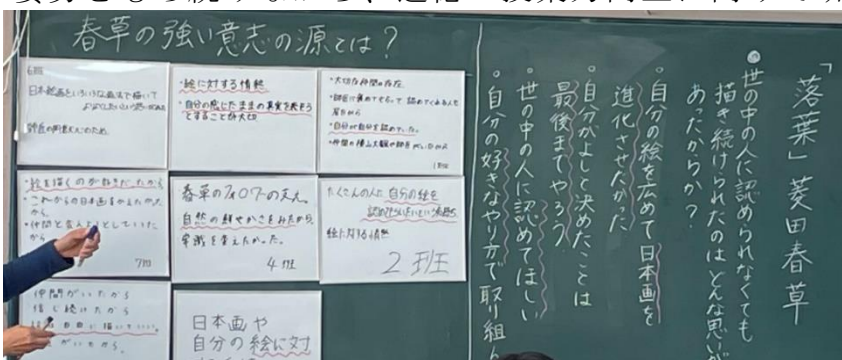
基本的には、授業中の発言の様子とワークシートへの記述で評価している。終末に感想を書くことは、その時間の自らの学びを振り返ることにつながる。「本時のねらい」にどこまで迫ることができたのかを書くことで、「道徳的価値」を自分との関わりで捉えることもできる。しかし、この記述に対する評価が、国語力や文章力の評価にならないように留意しなければならない。



### 4 実践を振り返って

道徳の授業を行うときは、自分も資料や生徒の意見に学ぶ姿勢で取り組んでいる。本時においても、中心発問に対する考えの中で、自分の予想にはなかった「仲間の存在」という意見が出たことは、多面的・多角的な思考を促す機会になったのではないかと考える。

今後も、生徒と共に学ぶ姿勢をもち続けながら、道徳の授業力向上に向けて研修を積んでいきたい。また、研究サポート委員として参加した研修会等で得られた知識を全教員に伝え、学校全体で道徳の授業について考える機会をもちたいと思う。



～家族愛、家庭生活の充実～

防府市立中関小学校

1 本授業におけるポイント

- たかしと母の思いを対比できるように板書し、たかしが涙を流した理由を一人ひとりが考えることができるようにする。
- ICTを活用し、互いの考えを共有することで、多様な考えに触れ、対話による多面的な見方ができるようにする。

2 授業の実際

1 主題・教材名 家族の助け合い「お母さんの請求書」（東京書籍）

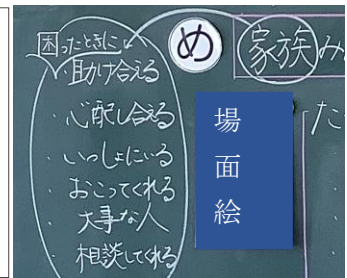
2 ねらい

たかしが涙を流した理由を考え、話し合うことを通して、自分の成長を願って家族が愛情をもって育ててくれていることに気付き、家族の一員として家庭生活により積極的に関わろうとする道徳的実践態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 自分と家族との関わりについての経験を想起する。

教師 : みんなにとって家族とはどんな存在ですか。  
 A児 : 助け合える人。  
 B児 : Aさんと似ていて困ったときに助けてくれる人。  
 C児 : いっしょにいる人  
 D児 : おこってくれる人  
 教師 : 「おこられる」ではなく、「おこってくれる」なんだね。  
 D児 : うん。自分のためにおこってくれるから。  
 E児 : でも、おこられるのは嫌かも…。/ 周囲 : うんうん。

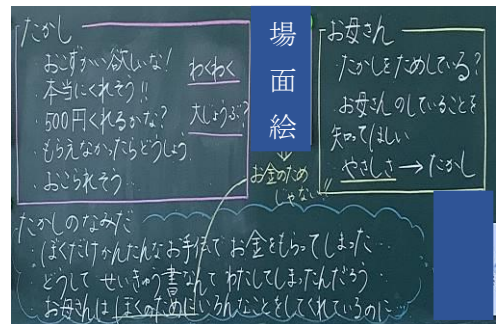


○ 指導上の留意点・支援等

児童から多様な家族観を引き出しながら、「そんな家族と気持ちよく生活していくためにはどんなことが大切なのだろうか」と問い、児童の問題意識を引き出していけるようにする。

(2) 展開 たかしが涙を流した理由を考える。

教師 : たかしはどんなことを考えたから、涙を流したのでしょうか。  
 A児 : ぼくは簡単なお手伝いや自分のことをしただけなのに、お金をもらってしまったから。  
 B児 : お母さんがぼくのことを思ってくれていることに気が付いたから。  
 C児 : どうして請求書なんて書いてしまったんだろうと後悔したから。  
 D児 : お母さんはぼくのためにいろんなことをしてくれているのに、ぼくはお金のことしか考えてなかったから。



○ 指導上の留意点・支援等

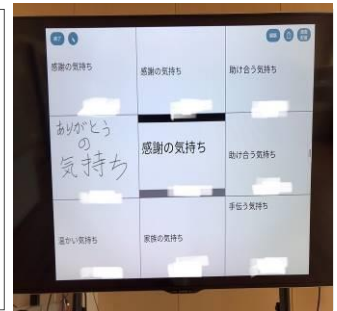
「お手伝いをしておこづかいが欲しい」というたかしの気持ちに共感させるだけでなく、子どもを思う親の気持ちについても考えさせることで、たか

しが涙を流した理由を多面的に考えることができるようにする。

また、たくさんの児童が自由に意見を出し合えるように、ノートに自分の考えを記入した後、ペアで伝え合う時間をとるようにする。

### (3) 終末 今日の学びについて自分の考えをまとめる。

教師： 家族みんなが気持ちよく生活するために大切なことは何だと思えますか。  
児童： ～ノートに記入～  
教師： みんなの考えを見て、もっと知りたい、聞いてみたいという人はいますか。  
A児： Bさんの「家族の気持ち」ってどういう気持ちですか。  
B児： 自分のことを優先するんじゃないで、家族はどう思うかなって考えて行動することが大切っていう意味です。  
A児： なるほど。

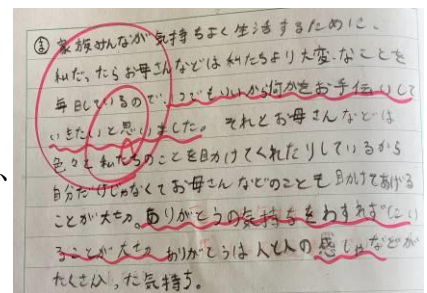


#### ○ 指導上の留意点・支援等

家族みんなが気持ちよく生活するために大切なことは何かをノートに書いた後、タブレットPCのロイロノートを活用し、自分の考えを「○○の気持ち」というキーワードにして提出させることで、互いの考えを共有し、多様な考えに触れることができるようにする。一覧になったキーワードを見比べながら対話をする中で「同じキーワードでも思いが異なっていた」「キーワードだけではよく分からなかったけど、質問してみて納得した」など、自分の考えを深めることができるようにする。

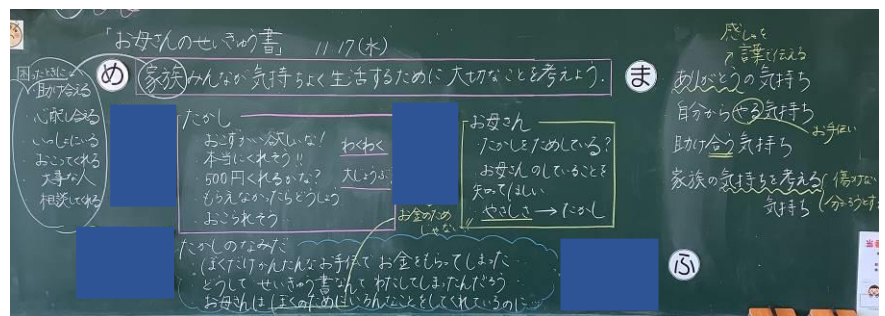
### 3 評価について

ロイロノートに提出しているキーワードや授業中の発言だけでなく、ノートに書かれている記述内容から、家族の一員として家庭生活により積極的に関わろうとする児童の考えの深まりを見取ることができる。



### 4 実践を振り返って

展開と終末の両方に、「書く→話し合う」という活動を取り入れただけでなく、タブレットPCを使って考えを



共有するという活動もあったので、時間配分がうまくいかず、終末に十分な時間をとることができなかった。そのため、書くことに抵抗感をもっていたり、自分の思いを言葉にするのに時間が必要な児童にとっては、自分事として考えたり、考えを深めたりすることが難しかったのではないかと感じた。しかし、タブレットPCを使って考えを共有することで、これまでは自分の考えを公表することが難しかった児童にも考えを伝える機会を保障することができた点は効果的だったと考える。これからも一人ひとりが自分事として向き合える授業づくりをめざして実践を進めていきたい。

～友情、信頼～

宇部市立厚南中学校

1 本授業におけるポイント

- 自由に意見を出し合える雰囲気づくり
- 発問の工夫

2 授業の実際

1 主題・教材名 真の友情「ライバル」（日本文教出版）

2 ねらい

信頼に支えられた真の友情について深く理解し、互いに認め、高め合う友情を育もうとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 2人の競泳選手について考える。

教師： タブレットに、競泳選手2人の画像を配ります。画像を見てアンケートに答えてください。  
 ◇項目1「この競泳選手二人の“友情レベル”はどのくらい？」  
 ◇アンケートの結果を提示 この2人の関係は？



- 指導上の留意点・支援等

画像は3枚用意。タブレット端末に配付する形で提示する。

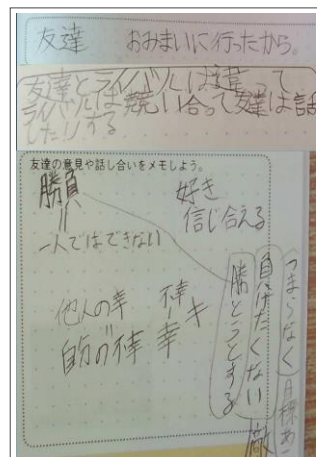
- ① 2人がリオ五輪で競泳男子 400 m 個人メドレーで荻野（金）・瀬戸（銅）を獲得。
- ② メダルを掲げて仲睦まじく笑っている写真。
- ③ 東京五輪競泳男子 200 m メドレー決勝の写真&コメント  
 荻野選手引退を知り、瀬戸が出したコメント  
 ①のみを提示し、“友達”感をアピール。  
 他2枚は、後半でライバル関係と友達関係を考えさせる。

(2) 展開 ライバル関係と友達関係について考える。

教師： 康夫さんと啓介くんとは友達ですか？そう思う理由も教えてください。  
 A： 友達じゃない、ライバルだから。啓介は康夫が苦手だから。  
 B： 水泳のライバルだから、友達じゃない。  
 C： 友達、見舞いに行っている。  
 D： 友達！ライバルでもあるけど、友達でもある。

教師： ライバルに対するイメージについて、+-のどんな感情を抱きますか？

- A： 相手の不幸は、自分の幸。
- B： 負けたくない。
- C： 目標、いないとつまらない。
- D： 憧れ。



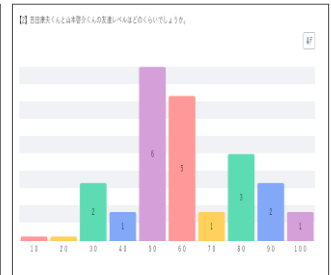
○ 指導上の留意点・支援等

友人と競い合った経験は、部活動やテストなどで誰もが経験していることであろう。啓介と康夫2人の関係を考えるとき、自分自身の友人関係を振り返るであろう。なんとなくもやとした思い、異なる感じ方をしっかりと自覚させておいてから、次のねらいである“高め合う友情”に移りたい。

(3) 終末 高め合う友情について考える。

教師： タブレットに資料を配布します。(画像②, ③を配布)  
 教師： アンケートに答えてください。  
 ◇項目2「康夫さんと啓介さんの“友情レベル”はどのくらい？」  
 ◇アンケートの結果を提示

教師： 康夫さんと啓介さんの2人のこれからがより好ましい関係になるよう、“友情”について思うことを書いてみてください。



○ 指導上の留意点・支援等

どんなに仲の良いと思っている友人も、時と場合によっては負の感情を抱くときもある。競泳選手2人の関係を知ることで、この資料の登場人物2人の関係をどうみるのか、意見が分かれることを予想して(期待して)、追加の発問「友達ってけんかはしないの?」「けんかをしないのが友達ですか?」などの発言を入れて、思考の深まりを促す。自身のことも振り返らせながら、仲よし、友達から高め合う友情について考えさせたい。

3 評価について

○ 意見発表、道徳ノート、ロイロノートで意見提出をする。	【30】好ましい友情を築くためには、もっと思いやりをもつ今のままでは敵対心やちょっとした友達としか思っていない	好ましい友情を築くためには(50%) お見舞いを先延ばしせず早めに思っていることを伝え合う。	【60】100に近づけるためのアドバイス 啓介も幸助もライバルならば、競い合うだけでなく、競い合うためのアドバイスをあうことを助け合い水泳の時には本気で競い合える友達になること 支え合える友達になること	啓介も幸助もライバルならば、競い合うだけでなく、競い合うためのアドバイスをあうことができるようにならないといけない。
	【60】100にちかづけるためのアドバイス 康夫はもう少しポジティブに考えいつまでもくじけずじなしようにしたいと思います。	「80」、康夫も啓介も両方が頼りあったり相談しあったりしていくことがあれば100に近づくとと思う。	【90】これから、ファイナルともしっかりと100に近づくとと思う!	

4 実践を振り返って

東京オリンピックが行われ、このタイムリーな話題に合わせて、画像資料を選択した。(実施時期9月)また、ICTの活用ということで、資料(画像)提示、友情関係についてのアンケート集計においてタブレットを活用した。全員が興味をもって参加することができるという点で、タブレットは優れている。アンケート集計の内容については、友達関係を数値化することで、主人公2人の関係を低いレベルと感じる生徒、高いと感じる生徒に分かれることを確認することができた。そう感じる理由を発表させてみると、高い数値で答えた生徒は、すでに今回の目標に近付いていることが分かった。提示するタイミング、質問内容など、まだまだ考慮する必要があると感じた。「相手の不幸は自分の幸」という言葉が出た時には、やや驚いたが正直な気持ちであろう。切磋琢磨という言葉の通り、高め合う友情について考えることができたと思う。

～公正、公平、社会正義～

宇部市立西宇部小学校

1 本授業におけるポイント

- 問題解決的な学習を通して、ハンセン病問題の根本にある差別の原因やその不当性に気づき、公正・公平な社会を実現するために大切なことを考える。
- 児童にとってあまり馴染みがないと考えられるハンセン病問題を題材として扱うことで、「知らない」ことや「知ろうとしない」ことの危険性を認識し、自分の生活を振り返る。

2 授業の実際

1 主題・教材名 差別や偏見のない社会をつくるために

「だれもが幸せになれる社会を」（光村図書）

2 ねらい

きみ江さんの願いや差別の原因を話し合う活動を通して、正しい知識を自ら得ようとすることや互いに支え合うことの大切さに気づき、差別をしたり偏見をもったりすることなく人と関わろうとする実践意欲と態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 幸せについて考え、発表する。

教師： あなたは今幸せですか。3段階（とても幸せ・まあ幸せ・幸せでない）で示してください。 A児： 幸せ。自分の好きなことができるから。 B児： 幸せ。戦争をしていないから。 C児： 幸せ。家族と仲良く過ごせているから。
---

○ 指導上の留意点・支援等

児童が、「幸せ」である状態を想起することができるよう、3段階で示す「幸せ度」とその理由を問う。

(2) 展開 教材文の範読を聞いた感想を伝え合い、きみ江さんがどのような思いで子どもたちと関わっているか考えて話し合う。

教師： お話を聞いて感じたことや考えたことは何ですか。 A児： 療養所に強制的に隔離されたり、避けられたりしたということを知った。 B児： 僕だったら、一生苦しいとか悲しいという思いが心に残ると思う。 C児： 「差別」をされてきたことがよく分かった。 教師： きみ江さんの言う「同じあやまち」とは何ですか。 A児： 国の隔離政策。 B児： ハンセン病の人が自由に暮らせないこと C児： 「差別」があったこと。
---

【児童のワークシートより】 いま ます。 思 い が 残 る と 思 い の 中 に 悲 し い と か 苦 し い の れ た ら ぼ く は 一 生 心 け ら れ の に み ん な か ら 生 き ら ない の っ たら、 何も して さい の だ も し ぼ く が そ の 人 だ
--

○ 指導上の留意点・支援等

児童が、ハンセン病の症状の1つである「手足等の変形」について理解することができるよう、患部の写真を提示する。加えて、児童が、様々な人（ハンセン病患者・ホテル従業員・世間の人々等）の立場で想像することができるよ

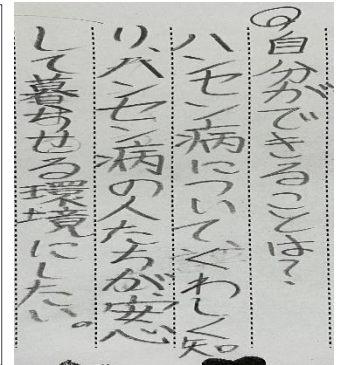


う、「自分だったらどうか」と問い返しをする。

また、児童が、きみ江さんの願いを想像することができるよう、「人が同じあやまちをくりかえさないよう」という本文を抜き出して提示する。

### (3) 終末 誰もが「幸せ」になれる社会をつくるために大切なことを考える。

教師： 誰もが「幸せ」になれる社会をつくるために大切なことは何ですか。  
A児： 平等にすること。  
B児： 「差別」をしないこと。  
C児： 誰もが仲良く暮らすこと。  
教師： そのような社会を実現するために、自分はどうしていきたいですか。  
A児： 自分がされて嫌なことは、人にしない。  
B児： いろいろな人に知ってもらう。  
C児： ハンセン病について詳しく知り、安心して暮らせる環境にしたい。



#### ○ 指導上の留意点・支援等

児童が、誰もが幸せになれる社会をつくるために必要なことを考えられるよう、人によって異なる「幸せ」が実現するのは、どんなときか考えるよう促す。

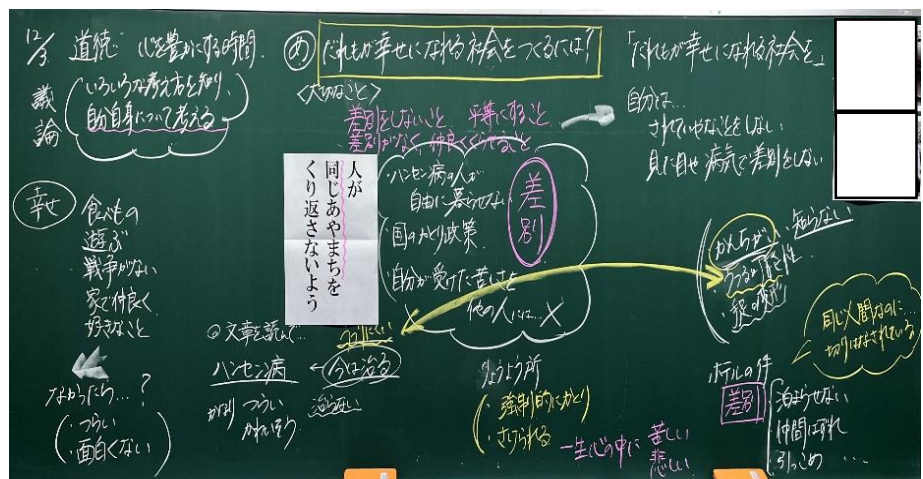
また、児童が差別をしたり偏見をもったりすることなく生活するために大切なことを考えることができるよう、一人ひとりが心がけられることについて考えればよいことを伝える。

## 3 評価について

これから、差別をしたり偏見をもったりすることなく生活するために自分が心がけたいことについて考えることができたか、ワークシートの記述から見取る。

## 4 実践を振り返って

ハンセン病問題について考え、議論することを通して、差別はいけないという表面的な理解に留まらず、「なぜ差別が起こるのか」「どのように差別をなくしていくか」と児童が自分事として考えを



深められるようにしなければならぬと感じた。また、児童にはあまり馴染みのない問題であるため、本時のみで完結させるのではなく、事前や事後に、ハンセン病の症状や差別の実態等について確認したり、児童自身の生活場面における差別の実態に目を向ける時間を設けたりする必要もあると考える。

～思いやり、感謝～

下関市立勝山中学校

1 本授業におけるポイント

- 中心発問と深い学びにつながる発問によって道徳的価値を理解し、自己の生き方についての考えを深める授業づくりの工夫。
- 生徒の思考を整理し、深める板書の工夫。

2 授業の実際

1 主題・教材名 思いやり・感謝「ひとのフリみて」（日本文教出版）

2 ねらい

日々の生活の中で自分を支えてくれている多くの善意や思いやりの心に気づき、自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 本時のテーマを知り、1時間のゴール（ねらいとする価値）を意識する。

教師： 「人を幸せにする言葉」にはどんな言葉があると思いますか。

A児： 「ありがとう」という感謝を伝える言葉。

B児： 「頑張れ」、「ファイト」という励ましの言葉。

C児： 「よし」、「最高」という自分が喜ぶ言葉。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 最初に本時のテーマ（「ありがとうという呪文」）を伝え、中心主題とする内容項目に関わる発問を設定して、直接的に主題に方向付けをする。
- ・ 展開部での話し合いの時間を確保するために時間をかけず、多面的な考えに気付かせるために発表を促し、多様な意見が発表できるような温かい雰囲気づくりを心がける。

(2) 展開 主発問を1つに絞り、まず個人で考えて自分の意見をもつ。次にグループ（3～4人）で交流してホワイトボードに意見をまとめ、代表者が全体に発表する。

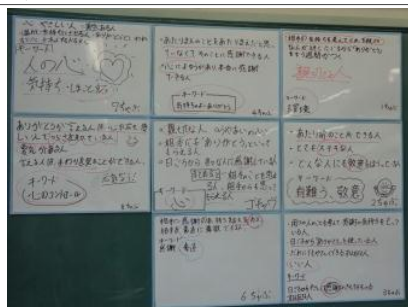
教師： 「ありがとう」が言える人はどのような人なのでしょうか。（中心発問）

A児： 相手を素直に尊敬できる人。「ありがとう」という言葉を伝えるにも勇気がいると思う。

B児： 心が広くて優しい人。相手の気持ちが分かって心のコントロールができる人だと思う。

C児： まわりを見ることが出来る人だと思う。「ありがとう」を言う人が近くにいる、そんな環境に暮らしているから人に感謝ができる。

ホワイトボードでのまとめ



板書による生徒の意見の整理



○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 個人で考える場面では、一人ひとりが自分の意見をもてるように机間支援を行い、どうしてそう思ったかなどの問い返しをして自分の言葉で記入できるようにする。
- ・ グループで考える場面では、まとめるときに発問に対する「キーワード」を考えて記入するとともに、全体に発表する時に発表者の意見を「プラス1」として付け加える。
- ・ 中心発問を議論の発火点と考える。中心発問によって生徒の多様な考えを出す

させることから道徳的価値に関わる議論をスタートし、グループで話し合っ  
て意見をまとめて全体に示すことにより、生徒の多様な考え方を引き出して拡散  
させる。

- ・ グループの代表者が発表した際に、意見をもった個人や全体に問い返す  
ることによって道徳的価値についての話し合いを行う。その際に、表出された考え  
や意見を分類して板書するとともに、意見を収束させて全体としての納得解へ  
と導いていく。
- ・ 板書の工夫として、以下の3点を意識したい。
  - ① 対比的、構造的な構成を意識した板書によって、1時間の学びの変容を自  
覚させる。
  - ② 考えの違いを類型化した構成を意識した板書によって、今の自分の考え  
方を自覚させたり、他の感じ方や考え方に合わせたりする。
  - ③ 中心発問をクローズアップした構成を意識した板書によって、振り返りの  
場面で生徒が自分のこととして捉え、深めていく手助けをする。

**(3) 終末 「深い学びにつながる発問」によって自分を振り返り、感想を記入する。**

教師： 「ありがとう」は、自分や自分をとりまくすべてのもの（人やものなど）にとって  
どんな魔法の呪文なのでしょう。 「ありがとう」の言葉のもつ力を考えて感想を書  
こう。

A児： 「ありがとう」は、自分を変える力をもつ呪文。

B児： 「ありがとう」は、相手のことを大切にすることができる呪文。

○ 指導上の留意点・支援等

- ・ 「深い学びにつながる発問」に対して、1時間の学びから導き出した自分の  
納得解を道徳ノートに記入する。全体への発表後、本時のテーマに沿って感想  
を記入する。
- ・ 感想を書く時間を十分に確保する。また、本時のテーマに対する考えをさらに  
深めるために、帰りの会で発表したり、学級通信に掲載したりする。さらに、教  
室内に「道徳コーナー」を設け、道徳ノートのコピーなどの学びの履歴を掲示す  
る。

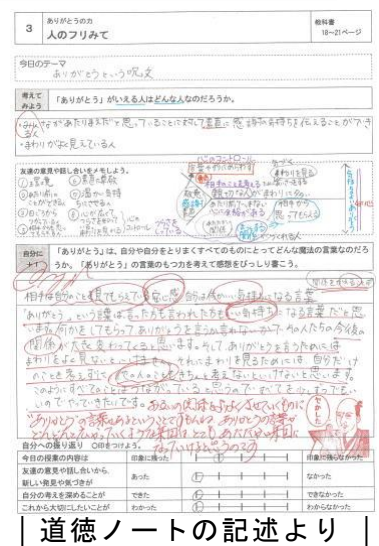
**3 評価について**

○ 自分のまわりにはさまざまな支えが存在していることに気付き、それを当たり前と思わない  
ことや、感謝の気持ちを素直に表現することが大切であるといった発言や記述があったかを、  
授業中の様子や道徳ノートの記述などから見取る。

**4 実践を振り返って**

本校の道徳科授業では、中心発問を軸として個人での思考、  
グループ活動による交流を仕組み、意見の拡散と収縮を繰り返  
す中で対話的な学びを行う。そして、終末部の深い学びにつな  
がる発問を通して自分を振り返りながら自分の納得する答えと  
ともに感想を記入するというパターンで毎時間授業を行っている。  
そのため、生徒は授業に取り組みやすく、活発な意見交換  
が見られるようになった。本時等の授業実践などから、以下の  
ような道徳科授業における課題が見えてきた。

- ・ 「自分はどうか考えるか」などと、より自分の事として考  
えることができるような発問や学習展開の工夫。
- ・ 一面的に捉えた意見から、より多面的・多角的な見方や考  
え方ができるようなグループ活動の活性化と課題や発問の工  
夫。
- ・ ホワイトボードが提示された後の深い学びにつながる発問の吟味と問い返しによ  
る生徒の意見の明確化。



～思いやり、感謝～

下関市立東部中学校

## 1 本授業におけるポイント

- 互いに思いやり、支え合うことの大切さを自覚し、他者の立場を尊重しながら、どうすることが相手にとって最善なのかを考えさせる。
- 席を譲る側、譲られる側の双方向から考えさせるなど、多面的・多角的に考えさせる。

## 2 授業の実際

1 主題・教材名 本当の思いやり「電車の中で」（日本文教出版）

2 ねらい

心の通い合いのよさに気づき、他者の立場を尊重しながら思いやりの心をもって人に接しようとする態度を養う。

3 学習指導過程

(1) 導入 「思いやり」とはどんな気持ちか振り返る。

教師： 「本当の思いやり」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。

A児： 相手に押しつけない。

B児： 相手の気持ちを考えて行動すること。

C児： 自分にとっても相手にとっても、よいと思われる行動。

○ 指導上の留意点・支援等

「思いやり」とはどんな気持ちか、「思いやり」がある行為とはどんなものか、自分の経験を振り返らせる。

(2) 展開 タケシの行為と心情とを比較させることで、「本当の思いやり」とは何かを考える。

教師： 恥ずかしさが込み上げてきたとき、タケシは何を思ったのだろうか。

A児： 自分は面倒なことになりたくないから立っていたのに、感謝されてモヤモヤした気持ち。

B児： 申し訳ない気持ち。

C児： 相手のことではなく自分たちのことを中心に考えてしまった。

D児： 女子2人と比べて自分は全く立派じゃない。

E児： 渋々席を譲った自分が情けなく思った。

○ 指導上の留意点・支援等

予想外の感謝で、自分の気持ちと行動のずれから気まずさや後悔を覚えたタケシの思いを考えさせる。

### (3) 終末 各班の発表を聞き、授業の感想を記入する。

教師： 「本当の思いやりとは何だと思うか。」という視点を踏まえて授業の感想を書きなさい。

A児： 自分の意志で譲ったらタケシくんはモヤモヤしないでよくなると思いました。

B児： 思いやりとは人の気持ちを考えられるかだと思います。

C児： 何事も手伝ってあげることだと思います。

D児： 思いやることは相手も幸せになるんだなと思いました。これからは行動に移したいと思います。

E児： 私も2人のように人のことを考えて動ける人になりたいです。

#### ○ 指導上の留意点・支援等

各班の話合いでまとめた意見の発表後、自分の考えと比較して、共感したことや新たに気付いたことを含めて振り返らせることで、これからの自分のあり方を考えさせる。

学級通信を発行して、授業の感想を全員で共有することで、自分の考えをさらに深めさせる。

### 3 評価について

- ・ 授業中に、思いやりの心をもって人に接していきたいといった発言が見られたか。
- ・ ノートに、思いやりの心をもって人に接していきたいといった記述が見られたか。
- ・ 本当の思いやりとは何か、授業を通して深く考えることができたか。

### 4 実践を振り返って

授業中の発言やノートへの記述、感想などから、子どもたちは、他者の立場を尊重しながら、自ら思いやりの心がある行動をすることの大切さを理解していると感じられた。

しかしながら、日常の学校生活では、思いやりの心の大切さを理解しながらも、行為として態度に表すことができていない生徒が見られるため、教材のさらなる分析を行い、発問や授業形態を工夫して効果的に指導することで、子どもたちの道徳的実践意欲と態度を育んでいきたい。

～公正、公平、社会正義～

長門市立菱海中学校

**1 本授業におけるポイント**

- 話合いの工夫～自由に意見を出し合える雰囲気づくり
- 発問の工夫～物事を多面的・多角的に考える発問

**2 授業の実際**

1 主題・教材名 正義を重んじる心「路上に散った正義感」（廣濟堂あかつき）

2 ねらい

よりよい社会のあり方について考えることを通して、社会生活における正義の大切さに気付き、不正な言動を許さない社会の実現に努めようとする道徳的実践意欲を育てる。

3 学習指導過程

(1) 導入 よりよい集団を作るために大切なものを考える。

教師： 生徒会役員選挙に向けてのあいさつ運動の写真を電子黒板に提示。  
 「よりよい学校にしたい」と立候補してくれました。よりよい学校にするために大切なものは何ですか。1つ、隣の人に言いましょう。  
 A児： 明るいあいさつ B児： 掃除をまじめにすること C児： 思いやりをもつこと  
 D児： やる気 等

○ 指導上の留意点・支援等

生徒の学習前の考えを顕在化し、共有する問いである。「よりよい社会を作るために大切なもの」だと考えにくいので「よりよい学校を作るために大切なもの」と置き換え、さらに、生徒会役員選挙に向けて活動している写真を示し、より身近な問題として考えられるようにした。意見が出やすいように、最初から全体に発表させるのではなく、隣の人に言わせる、「1つ」と数を限定しあれこれ考え込まなくてよいようにするという工夫をした。

(2) 展開 教材を読み、登場人物の行為のもとになった心情を考える。

教師： 大学生は犯人を捕まえようとしてしました。どんな気持ちからでしょう。  
 A児： 困っている人を助けたい。  
 B児： 悪いことを許してはいけない。  
 C児： 見て見ぬ振りをしてはいけない。  
 D児： 自分たちが何とかしなければならぬ。  
 E児： 悪いことをしている人をこらしめたい。  
 F児： 見逃すと、犯人はまた同じことをする。等

○ 指導上の留意点・支援等

大学生の行為は、無謀だと判断されかねないので、動機に焦点を当てた。ワークシートに考えを箇条書きで書かせ、見て回りながら「なるほど」と共感的に受け止めながら、赤鉛筆で○をつけた。考えを認め、自信をつけさせるためである。○をつけた生徒で、考えの種類が異なるものは黒板に書くように指示した。列挙された考えを読み、大学生の心情を多面的に理解できる

ようにした。

教師： これらの心情は、みなさんや私の心の中にもあります。  
では、このような気持ち、考えを私たちが失ったら、社会はどうなるでしょうか。  
1班： 社会が荒れ、事件や事故が増える。2班： 力で支配される世の中になる。  
3班： 犯罪が絶えない。4班： 見て見ぬ振りをする人が増える。  
5班： 人に無関心になり、誰にも頼れない世の中になる。等

○ 指導上の留意点・支援等

大学生の正義感、程度の差はあれ誰の心の中にもあることをまず押さえた。正義感がよりよい社会をつくる上で欠かせないことを実感させるため、「失ったらどうなるか」をワークシートに書かせた。その後班で話し合わせ、意見を書いたホワイトボードを黒板に提示させた。

(3) 終末 教師の話聞き、本時の学びを書く。

教師： 最初に「よりよい学校にするために大切なもの」でいろいろな意見が出ました。みなさんが考えているものはどれも大切なものです。さらに、ここにある大学生の思いもよりよい社会には欠かせません。なくなってしまうと、私たちの安心、安全な生活が脅かされます。正義が通る社会、悪や困っている人に無関心ではない社会を望んでいると思います。状況によっては立ち向かうことが難しい場合もあります。しかし、私達は正しい行動を取ろうとする人、正しくない言動に対し自分の最善を尽くせる人でありたいですね。

生徒の感想： 確かに、今の社会は、正義感を持っているけれど見て見ぬ振りをしている人が多いと思います。自分も悪いことだと分かっているけど、それを注意できないということもたくさんあります。それでも、これからはこの大学生のように自分の持っている正義感を生かしたいと思いました。  
大学生の勇気は素晴らしいと思いました。悪いこと、よいことの区別がつかない、自分勝手な行動をする人が増えると社会は崩れていくと思います。学校や家で、やるべきことなどを正しい判断をして行動したいと思います。

○ 指導上の留意点・支援等

展開の前半で生徒が黒板に書いた大学生の心情を授業の最後に再度取り上げ、生かす構成にした。生徒の考えが生徒自身の字で書いてあることで、自分達から出た意見であるという印象が強くなることを意図した。

**3 評価について**

- 考えや授業の感想を書いたワークシートを提出させ、生徒の学びを見取る。
- 実践意欲が強く感じられる感想を帰りの会で紹介する。

**4 実践を振り返って**

この教材は一読後「大学生は立派だ」「犯罪はよくない」「大学生は判断を間違ったのでは」という賞賛や批判～他人事～にとどまる可能性がある。そこで大学生の心情を理解させ、よりよい社会をつくることを自分事で考えられる組み立てになるように試みた。2学期後半、自分たちが学校づくりの主役になるという時期に行ったことも、しっかり考え、意欲をもつことにプラスに働いた。教師の話が模範的だったので、心を動かせるエピソード等があればさらによかった。教材の事件が極端なのではと危惧したが、生徒達の、正義が通る社会を望む気持ちが表現、共有された授業となった。日頃の生活の中でその意欲をさらに育てていきたい。

## 1 本授業におけるポイント

- いじめに関わっていない人がいるかどうかを考えさせることで、傍観者に焦点化し、一人ひとりがいじめを止めるための行動を起こさなければならないことに気付くようにする。
- 一人ひとりが話しかけたい登場人物を選ぶことで、自分事として考えられるようにする。

## 2 授業の実際

### 1 主題・教材名 いじめをたち切る正義「わたしのせいじゃない」

(日本文教出版)

### 2 ねらい

いじめを止めるために話しかける言葉を考えることを通して、いじめを許さないという道徳的実践意欲を養う。

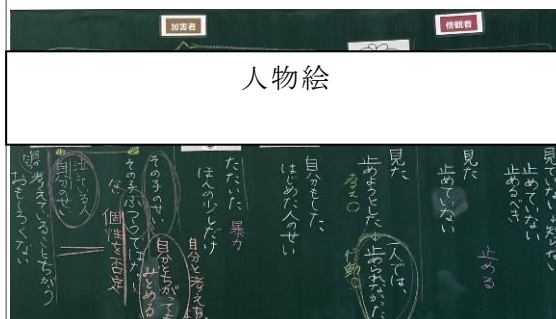
### 3 学習指導過程

(1) 導入 登場人物の中で、いじめに関わっていない人は誰かについて話し合う。

教師： この中で、いじめに関わっていない人は誰ですか？

A児： 「はじまったときのことをみていないから、どうしてそうなったのかしらない」っていうのは、いじめに関わっていないよ。知らないんだから。

B児： 「こわくてなにもできなかった」っていうのは、いじめじゃないよ。何もしていないんだから。自分も同じ立場だったら何もできないと思う。



### ○ 指導上の留意点・支援等

いじめに関わっていない人を選んで、自由に意見を出させた後で「いじめの4層構造」を説明することで、傍観者もいじめに関わっているということを理解させる。

(2) 展開 登場人物に言いたいことを考え、話し合う。

教師： いじめを止めるために、この中の誰にどのように話しかけますか？

A児： 「見てるだけ」も、いじめになるんだって。君も関係あるんだよ。勇気を出して止めようよ。

B児： 「ちがう」とか「おもしろくない」とかで責めるのはおかしいと思うよ。違うのは当たり前じゃないか。

C児： 「すこしだけだよ」って、叩いたことに変わらないじゃないか。あなたも相手を傷付けているんだよ。



○ 指導上の留意点・支援等

正義の視点にかたよった時には、「止めるのは怖い」「関わりたくない」という登場人物の言い分を取り上げることで、人間的な弱さも含めて考えることができるようにする。

(3) 終末 いじめをなくすために大切な考え方は何かを考える。

教師：	いじめをなくすために大切な考え方とは、どんな考えでしょうか？
A児：	クラスの問題を、クラスみんなの問題として考えること。
B児：	ダメなものはダメ。
C児：	自分がされたらどう思うか想像すること。

○ 指導上の留意点・支援等

今後の学級経営につながるように、全員に発表させる。その際、子どもの表現を大切にし、どの考え方も肯定的に受け止める。

### 3 評価について

- |   |  |
|---|--|
| ○ | 導入の意見と展開の意見を比較できるように、板書の意見にネームプレートを貼っておき、写真で記録する。      |
| ○ | 振り返りを、「これまでどう思っていたか。」「今日の学習で何が分かったか。感じたか。」という2文で表現させる。 |

### 4 実践を振り返って

自分で登場人物を選んで言いたい言葉を考えたことで、一人ひとりの経験や価値観の違いが表れて良かった。その後の話合いでも、教材から離れて自分の言葉で語る姿が見られ、自分事として考えていることがうかがえた。

児童の感想に、「これまで私はいじめに関わっていないと思っていたけれど、見ているだけでもダメだということが分かった。自分から動かないといけないと思った。」「これまで自分と違うなと思う人をさけていたけど、そういう考え方がよくないのだと、今回の話合いで分かった。」というものが多く、いじめを許さない構えを育てるよい機会になった。

一方で、「自分と違う考えの人と仲良くできないことは仕方ないのではないか」と問題提起をした児童がいた。違いを受け止めてどのように付き合うことが望ましいのか、引き続き子どもたちと話し合っていこうと思う。